

小確幸 2



2021年版

目次

はじめに	1
第一章 台湾あれこれ	
春聯	4
そばの花と蝶蝶	6
帝国製糖	8
風鈴木	11
台湾のマンゴーを日本へ	14
内湾線にある幸福駅との姉妹駅（合興站）	18
マンゴー日記	22
白冷圳にあった水分神社	25
第二章 自費出版の本	
電子書籍	32
日本語人の書いた本	38
むかし日本人いま台湾人	45
第三章 山歩き	
溪頭（溪頭森林遊樂区）	50
宜蘭、太平山で過ごした 3 日間	53
馬告生態公園にある神木エリア	56
塔塔加裕遊憩区	60
苗栗県三義郷にある三角山三角山	62
第四章 李総統	
台中市にある李総統の揮毫したもの	66
李総統を悼む	70
朝日新聞 天声人語（2020.8.1）	73
終戦と李総統	74
ジュデイ・オングの李総統との思い出	78
李総統に関すること	82
第五章 コロナ禍	
台湾天才デジタル大臣オードリー・タン	92

日本 コロナ禍の一年	97
第六章 テレサ・テン	
テレサ・テン物語	102

はじめに

今年是中国武漢で発生した新型コロナウイルスが世界中に瞬く間に広がり、累計感染者数は約5か月後に1千万人となり、米ジョンズ・ホプキンス大の集計によると12月27日時点で世界の感染者数は8千万人、死者数は175万人を上回ったそうです。

日本はコロナ拡大により緊急非常自治宣言が発令されたり一斉休校があったりまた経済にも大きな打撃を与え飲食業、観光業、航空業など多くの業界に影響が及び、甲子園高校野球が中止になり、東京オリンピック・パラリンピックが延期になるなどまさにコロナ禍一色の一年でした。

台湾とて例外なくコロナの影響もありましたが、諸外国に比べると感染を抑え込み世界各国から称賛されています。その立役者の一人のオードリ・タン台湾デジタル担当政務委員の存在が脚光を浴びており、本書で紹介しています。

ただ去年に引き続き台風の襲来もなく台湾中部は雨降りも少なく水不足の心配させられた年でした。

本書はFB記事に投稿したものや2020年に起きた事柄やネット記事で調べたものなどを中心にまとめてみました。

第一章には山歩きした溪頭、大平山、阿里山近郊、三角山などを第二章には新型コロナウイルスに関する日台のネット記事を紹介し、第三章には台湾のあれこれについて第五章には李総統の逝去などに関する関連記事を最後の第六章にはこれまたネットより転載したテレサ・テンの紹介で締めくくっています。

今年是世界中がコロナで各国が鎖国状態になりました。台湾でもマスク生活を強いられ、普通の日常生活を過ごすことができなくなりになりました。日々の生活の中で「小さくても確かな幸せ」を感じていくことが大切だと思います。本書のタイトル「小確幸」はそんな思いから、かつて村上春樹が造語した言葉で再利用しました。

最後に本書にはネットより転載した記事が大半を占め、自分で書いた文章が少なくなり、これも加齢による文章力の欠如と言えるのかも知れません。なにとぞご容赦の程お願いします。

一日も早くコロナが収束することを祈っております。

第一章 台湾あれこれ

春聯

今年の干支はネズミ年なので鼠の漢字を利用して遊び心で
日本語の先生が日本語の発音を中国語で春聯を作ってみたとか。
中国語読みがそのまま日本語として通用するのが面白い。
でも中国語としての意味は何もない。

左：すばらしい (太讚了)

右：すごいね (好厲害)

上 (横)：すげー (酷)

哈哈哈，祝大家過一個「鼠蝶奇」(素敵)的「鼠年」！

新年快樂，萬事如意。

祝各位鄉民新年快樂啊！鼠年行大運！



そばの花と蝶蝶

ここは彰化県二林にある蕎麦の花畑ならぬ花海です。好天に恵まれた今日、チョウチョや

トンボも舞っていました。日本では考えられない光景。12月で蝶が飛んでいるなんて。あなたのソバがいいとばかり蕎麦の花とデートしてるようでした。(2019/12/2)





そば畑.jpg

帝国製糖

修復された帝国製糖廠臺中營業所

台中駅の裏手にあった製糖工場が昨年暮れに修復され「台中産業故事館」として新しく生まれ変わりました。

周辺には伝統的な市場もあり、将来出来る「三井ショッピングパークららぽーと台中(仮称)」にも隣接。立地条件の良さにより、地域の活性化につながる事が期待されています。

前身は1935年(昭和10年)に完成した帝国製糖工場で、戦後は台湾糖業に利用され、周辺で残されていた唯一の日本時代の建物で2007年に歴史的建造物として登録。市では文化や歴史を保存しようと工場跡地周辺の再整備を推進するとともに景観工事も行われ昨年暮れにオープンしたのです。本館の周囲の沼地は「星泉湖」と名付け



年代	紀事
明治43年(1910)	臺灣人林烈堂經營的臺中製糖場和林瑞騰經營的協和製糖場再加上松岡製糖場由這三間改良糖廠合併為新式糖廠，而成立「帝國製糖株式會社」。廠房位於當時臺中市高砂町(現東區樂業路)
昭和10年(1934)	1935年(民國24年)興建本建築
昭和16年(1941)	帝國製糖株式會社併入大日本製糖株式會社，臺中工廠隸屬該社，是為「臺中製糖所」
民國35年(1946)	戰後由資源委員會接收，成立臺糖公司，並在當時設4個分公司，將臺中製糖所設為第一分公司
民國39年(1950)7月	實施總廠制、撤銷分公司，成立「臺中總廠」。除了原有所管轄的臺中、潭子、烏日三座製糖工場外還督導溪湖、溪洲、南投、彰化、月眉、新竹、埔里等7個糖廠
民國56年(1967)7月	糖業公司實施大廠制，改制後本廠成為大廠制之總廠，除負責臺中廠本身之產糖業務外，並管轄月眉及溪湖糖廠
民國63-74年(1974-1985)	1974年從產量1,726公頃減至1985年生產量僅1,444公頃
民國79年(1990)	臺中糖廠停產
民國82年	正式廢閉，遷往新址

製糖沿革.jpg



DSCN2224.JPG

風鈴木

「風鈴木」～ピンクと黄色の二種類あることを去年になって初めて知った。

自宅付近にある公園にきれいな赤い花が咲いている。洋紅風鈴木という花で一足先に桜が開花したみたいだ。(2020/1/6)



今年もやって来た黄金風鈴木の季節~青空に黄色がよく映える。(2020/3/2)



P S日本ではタベブイア ロセア 黄色いのはタベブイア クリサンタと言ってるよう
ですが、中国語名の方が覚えやすいですね。カタカナじゃ何のことかわからないよ。
植物は特に。

台湾のマンゴーを日本へ

【88歳の台湾のおばさんが立ち上げた会社でマンゴーを】

台湾在住の皆さん、元気ですか？台湾の市場にマンゴーが出回る季節となりました。日本の友人への

マンゴーをとお考えの方は、日本語教育を受けた楊素秋さんが立ち上げた会社が皆さんのお手伝いを

します。マンゴーに「真心」を込めて配送します。

申し込みは6月20日までです。台湾から日本へ送る場合の料金は、2.5キロ（6個）NT1800元 5キロ（12個）NT2700元（税込み運送料込み）但し、台湾国内の銀行への振込みとなります。

日本向けマンゴーですから、品質は特級！ 最終締切は、6月20日！残り約3週間です！

振込先は（匯款資訊如下）：

遠東銀行（銀行代號 805）台北逸仙分行

帳號：00300100017737 名：弘明金鼎有限公司

楊さんが87歳で去年会社を立ち上げ、日本の皆さんに台湾の美味しいマンゴーをお届けしたいとメールがあり、ぼくは頑張っている楊さんに少し手伝いをすることにしました。

皆さんもどうか応援の程お願いします。

日本へ届くまでの流れ

1 ぼくあてにラインメールで、受取人と依頼人のお名前、お住まい。電話番号などを記して注文書（必要な方は申し出て下さい）を送って下さい。

2 指定銀行に送金。送金後、控えのコピーをラインで送る

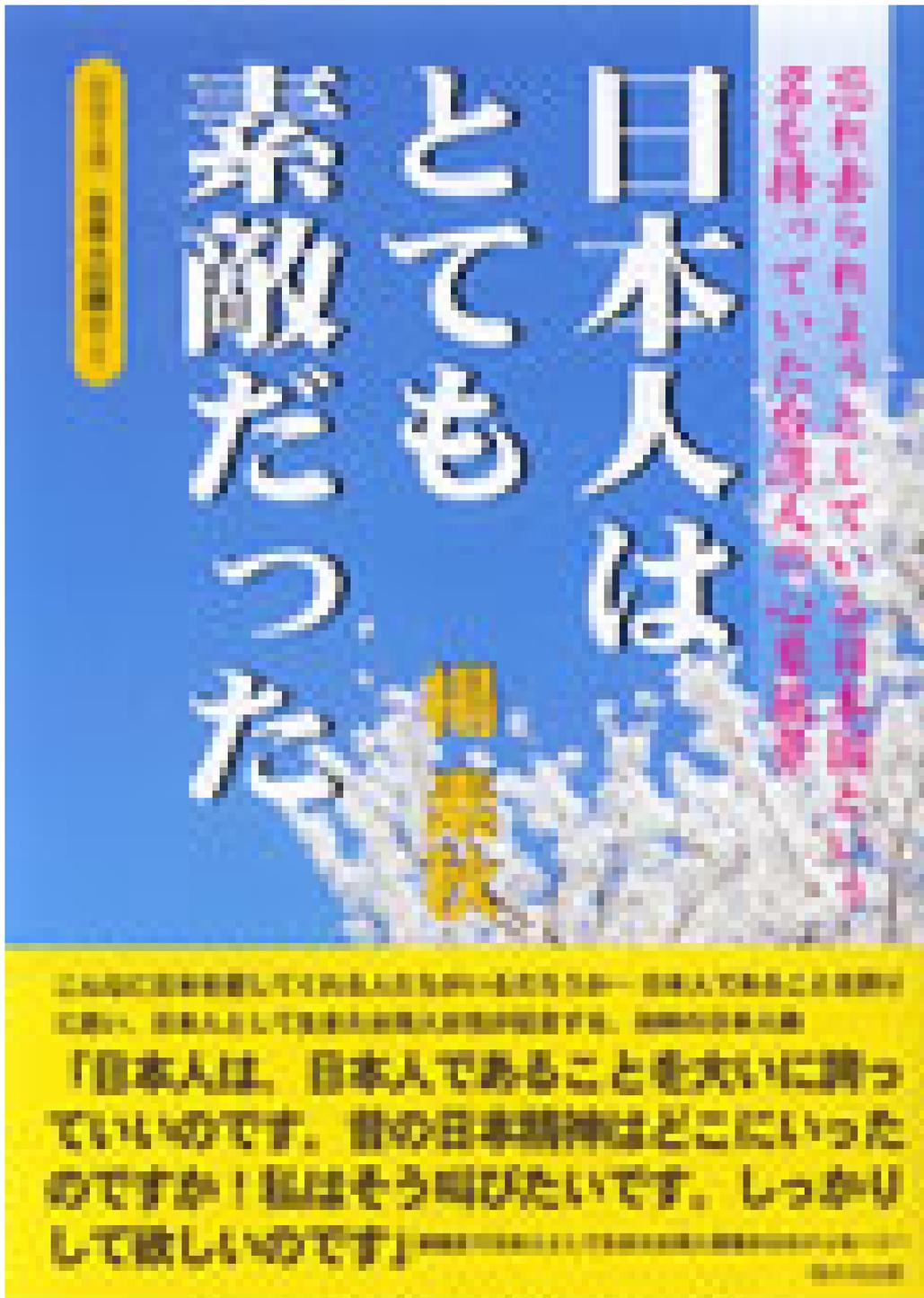
3 皆さんから注文分をまとめて楊さんあてに送ります。

4 台湾から空輸されたことを皆さんに通知します。

東京都内は2，3日後宅配便で届けられます。

（楊素秋さんの紹介）

昭和7年（1932）生まれで日本時代を生き抜いてきて、自分の体験を通して日本各地で講演活動を行って来ました。2003年に出版した『日本人はとても素敵だった』という本を発行。下記のネットでもそのタイトルが、日本時代に帰りたい。台湾人女性が語る「美しき幸せな日々」であり如何に日本のことを思っているかがわかるのです。



B6判並製292頁
1365円（税込）

楊素秋.jpg

内湾線にある幸福駅との姉妹駅（合興站）

「内湾線にある合興駅（別名愛情駅）を尋ねる」

2年前に北海道ツアーに参加した時、幸福駅に立ち寄った時に偶然に覗いた一両の客車に

幸福駅と合興駅は姉妹駅協定を結んでいることを知り、いつの日か合興駅を尋ねてみよう

と思っていた。

コロナ禍が一段落した端午節4連休は行楽地はどこもコロナ前の人出が復活してきた。そんななか内湾線は台中から半日で行けて比較的手ごろな所だ。

新竹駅と竹中駅と2度乗り換えて、はじめて合興駅（無人駅）に降りてみた。ここが愛情駅と呼ばれているのにわけがある。

2000年に廃棄予定の旧駅舎の管理に名乗をあげた老夫婦の、50年代にこの駅がきっかけ

で通学中に出会い、後に結婚するに至ったという実話が感動を呼び、合興駅はいつしか

恋人たちの聖地となったのだ。別名「愛情の駅」と言われている。駅舎内にその話を記したものがある。（日本語翻訳文あり）

すっかり観光化されてしまった気配があるが、北海道の幸福駅とは一味違うものがあり、一度訪れてみては如何？ 女朋友（ガールフレンド）のいる、いないに関わらずお店の人

からは誰でも歓迎されますよ。（2020/6/26）



駅舎.JPG



故事.JPG



勇気の鐘 .JPG

マンゴー日記

6/30

こんばんは。マンゴー（5キロ入）は今日空輸され明日か明後日中に宅配便（クール便）で届けられますのでお知らせいたします。なお2.5キロの方は7日発送されます。よろしくお祈いします。また無事着きましたら受取人からの感想などを聞かせてください。

7/7 九州地方に豪雨

7/9

皆さんには「7日空輸されたあと宅配便で届けます。」と約束していたのに、今回の大雨の為に空輸をドタキャンしました。連絡が遅くなって申し訳ありませんでした。マンゴーの届け先は北海道から九州まで広範囲に及んでおり、配送途中に何らかのトラブルが生じ、一か所でも届かないような事があってはいけないと思ったからです。結果的には正しかったと思っています。

7日に出荷予定だったマンゴーはすべて国内（台湾）向けに回して消費するようにし、来週の出荷分については改めてマンゴーの木から収穫して消毒、検疫を済ませ、新たに

箱詰めして日本に出すことにしています。日本の皆さんにはコロナ禍や大雨にも負けず

おいしいマンゴーを召しあがってもらい元気を出して頑張ってもらいたいと思います。また、今回の水害で亡くなられた方々の御冥福を祈ると共に、被災地の皆様方の健康、そして一日も早い復興を祈っております。

7/17

6月から約一カ月半日本にマンゴーを送る会社の手伝いをしてきて、注文を頂いた方からのマンゴーは昨日ですべて無事届いたようで有終の美を飾ることができました。例年なら一日何便も空輸していたのが今年はコロナ禍で7日に一便しか飛ばず、また豪雨のためにドタキャン騒ぎもあり、皆さんには心配をおかけしました。でも無事こうやって済んでみると終わりよければすべてよしですね。ぼくにとっても初めてのマンゴーを送るボランティア活動で皆さんの協力があって成功したようなものです。本当に有難うございました。また期間中に日本側の代理人が現れ、日本に住んでいる人も注文で来きるようになったのです。台北のオーナーは「マンゴーを通して台湾と日本の架け橋になりたい」と語っております。

今回利用できなかった皆さん、来年は早めにお知らせしますのでよろしくお祈いします。下記のようなお礼メールが次々と寄せられ、この仕事を手伝ってつくづくよかったなあ

と思いました。

Chihiro 立派なマンゴーが届きました（下記の写真）

甘い香りに今からワクワクしています

見たところ傷一つありません！



綺紅 初めての注文で、無事に届けて良かったです。

来年もお願いしたいと思っています。有難うございました。

hana 友人や家族に喜んでいただけてよかったです！

ありがとうございました！

来年また注文させていただいたら嬉しいなと思います。

ayu 北海道と東京の家族へ送りましたが皆喜んでいました。

ありがとうございました。また来年、注文させていただきます。

Taeko 初めての注文でしたが、注文方法が簡単で助かりました。

また、冷蔵で届けていただいたので、届いてすぐ食べら

れたのも喜ばれました。

可能であれば、台湾の夏の果物の詰め合わせとかできたら

もっと嬉しいです。

また来年お世話になると思いますのでよろしくお願ひします

Misa こんにちは。マンゴー届いたそうです。ホッとしました。

何度もご連絡ありがとうございました

yuka

母からこんな感想もらいました、送って本当に良かったです

↓ 「マンゴー 美味しいね。こんなに美味しいのママ初めて！

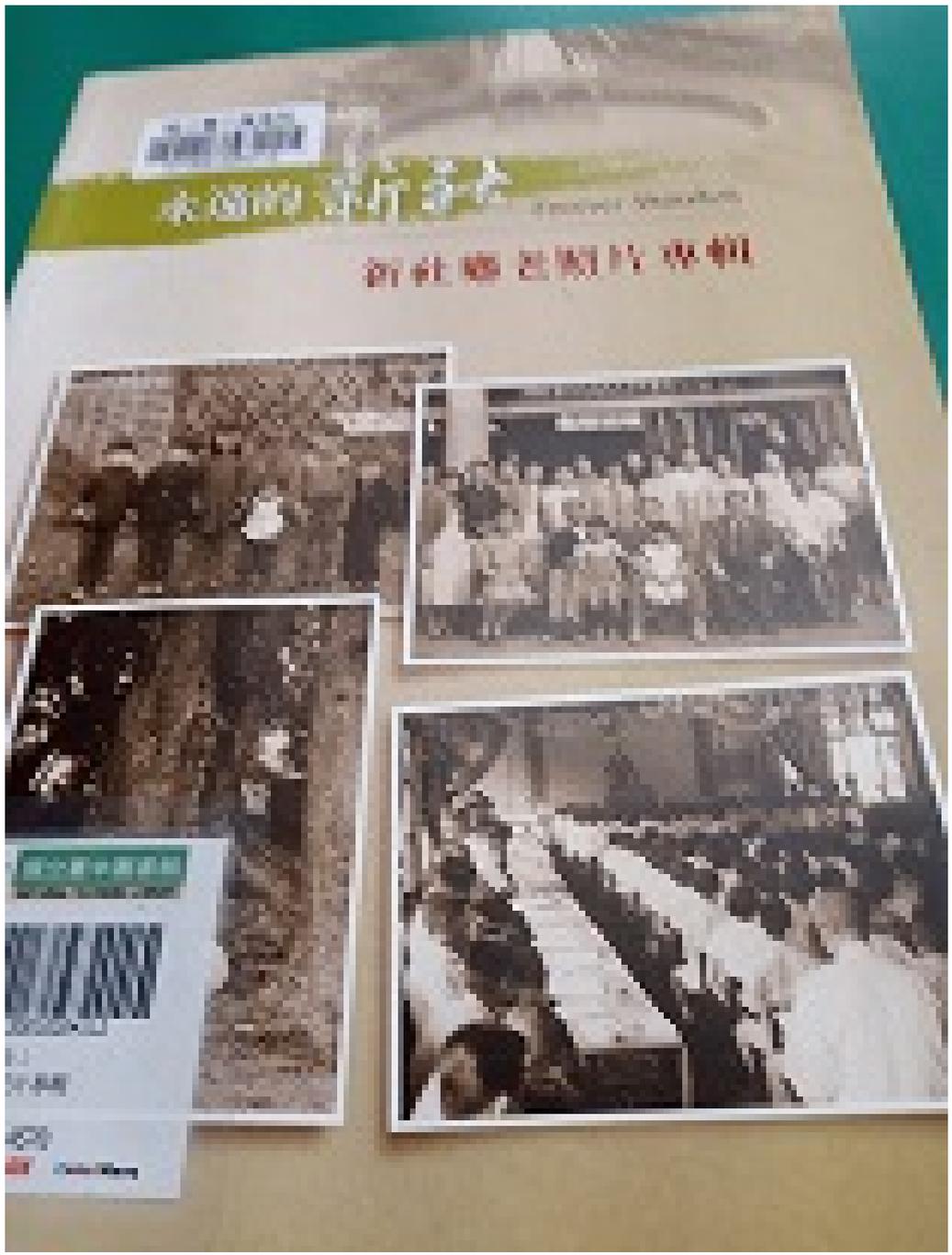
ごちそうさま！ パパも真ん中までいただきました。

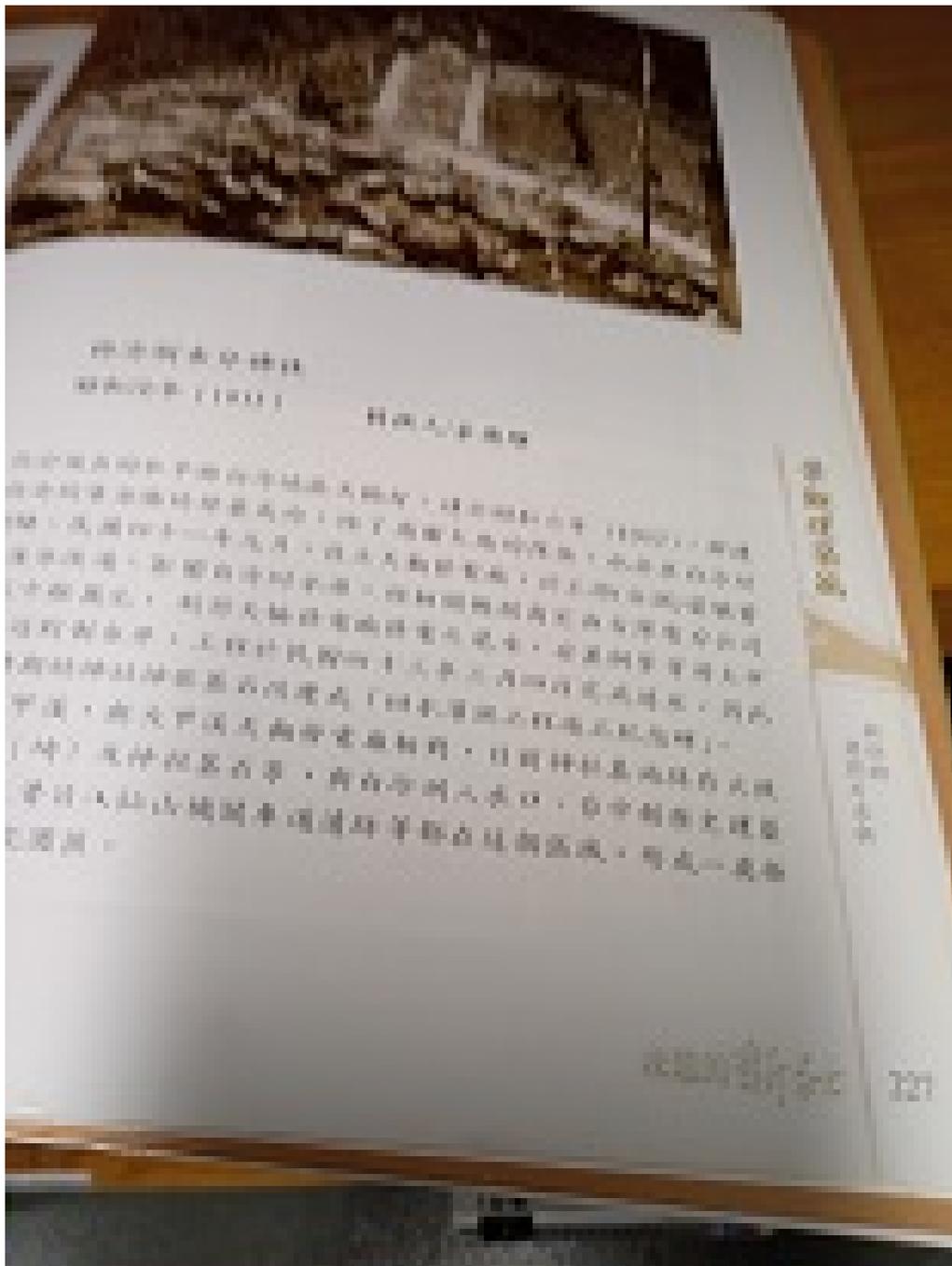
ありがとうねー」

白冷圳にあった水分神社

白冷圳の全容を知るために新社を訪れた時に、起点となる取水口の所にあった記念碑がずっと気になっていた。この記念碑は日本時代にきっと神社だったに違いないと思っていたからだ。

その証拠は十数年後にして初めて分かった。台中図書館の日本時代に関する書籍、写真集がありそこで『永遠的新社、新社老照片專輯』と言う本の中に見つけたのだった。





そこには写真付きで中国語で説明文があったのだ。

「

水分神社

出典』227 頁 翻訳文

白冷圳水分神社

昭和 10 年 (1935)

水分神社は、現在の和平郷白冷地区にある天輪村に位置しており、昭和七年 (1932) に建てられました。建設の目的として、白冷圳の導水路が成功に修築されたことを記念するためであったが、この大地のご加護に感謝するほか、白冷圳の水源の水がスムーズに流れ続けられることを祈る思いも込められています。民国 41 年 9 月に天輪発電所を設立し、上流 (谷関) にてダムを修築してから貯水できるようになったことがきっかけで、大甲溪の流れる通路が変えられたあげく、白冷圳の水源にも影響を与えてしまいました。関連機関の商談のもとで、最後に台湾電力による約百三十何万元 (台湾ドル) の出資で、大甲溪の溪流の底を貫いた鋼管を設置し、天輪発電所の発電用のテールウォーターを利用することで直接に水を「制水井 (制水井戸?!)」に送れるようにしました。民国 43 年 3 月 4 日にこの工程で通水を完成させため、政府はこの日本統治時代に建てられた神社の礎石を「背水灌漑工事完成記念碑」に立て直しました。

大甲溪を隔てて、水分神社は大甲溪天輪発電所の向こう側にあります。現時点では、神社の土台保存が大体コンプリートな状態にあり、神社の参道 (崎) や礎石などが含まれています。また、白冷圳の水入り口を始め、台中県 (←元台中県) の歴史建築「制水井 (制水井戸?!)」や天輪吊り橋、昔八仙山にある機関車の車道遺跡などもこの地域に点在しているため、とても歴史意義のある水源地文化園区が生まれた訳です。(翻訳：許玉玲)

第二章 自費出版の本

電子書籍

(1) 2020/01/11

電子書籍『私と台湾2』が発刊されました。

前作の続編です。今回で7冊目となる令和2年最初の電子書籍が完成しました。

去年の秋に撮ったお気に入りの逆さ富士を表紙にしたので、どうか富士山の夢でも見て下さい。

きっと今年はいいことがありますよ。

紙の本も近日中に届くことになっています。

台湾の春節（旧正月）前に間にあってよかったです。

私と台湾2



編著者 喜早天海

(2) 2020/3/10

今のウイルス騒動で春節休みが延期になり、ここ一カ月あまり時間の余裕ができ、2004年8月に発刊した本の一部を変更し改定版『宝島台湾』として電子書籍化してみました。原書は絶版になっていますので興味のある方はネットで是非ご覧になって下さい。



主な内容

- ★ 4 番まであった「蛍の光」は今なお台湾でも歌われている。
- ★ 第三高女OBによる日本人の恩師に対する感動の告別式
- ★ 2003 年に起きた「SARS」
- ★ 台湾近代化の父「後藤新平」
- ★ 李元総統の幻の講演「八田與一に見る日本人精神」

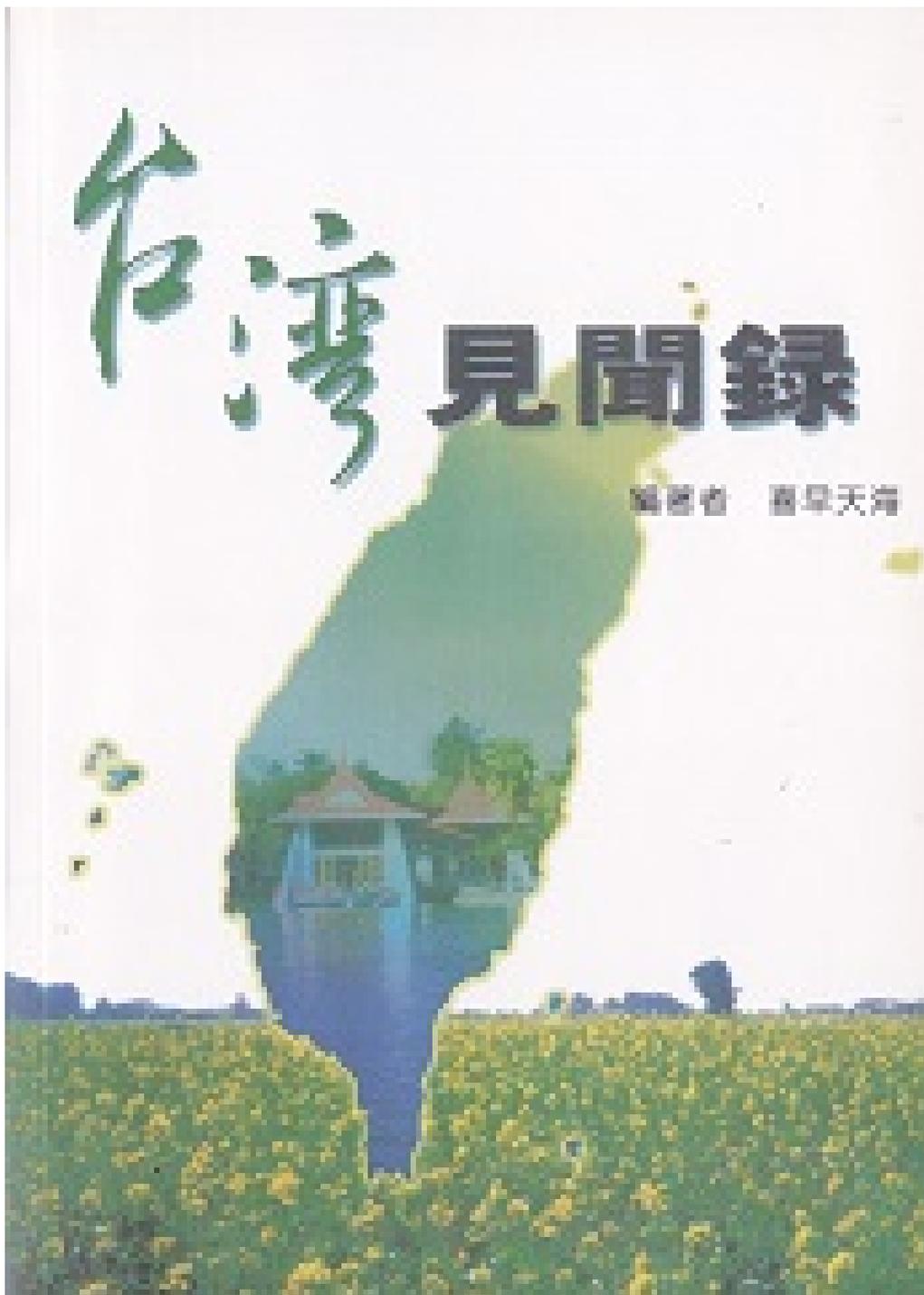
(3) 『台湾見聞録』 2020/08/01

電子書籍9冊目となる『台湾見聞録』が出来上がりました。

本書は1998年6月発刊した「見た！ 聞いた！ 知った台湾見聞録」を電子書籍化したもので、記載内容については今日の社会状況とはだいぶ異なる点がありますが、30年前の昔話としてご覧になってください。それでも物の考え方や風習などは昔と変わらず、台湾ビギナーにとって役に立つ情報もきっと多いと思います。

この電子書籍を公開しようと編集、校正作業をすすめている時に30日7時半過ぎにテレビのニュース速報で「李登輝元総統病逝」のテロップ記事が—。李登輝さんのことを記述した～台湾に住む「日本人」の原稿を追加している所でした。あまりのタイミングに驚きました。(中略)

本書が日台の架け橋とならんことを願っています。今月中は無料ですので是非ダウンロードしてご覧になってください。



(4) 今月第2冊目 電子書籍『第二次大戦の戦勝国・日本』発刊！

この本の著者である大正生まれの水方仁子（みずかたひとし）さんは1945年までは日本人であり、本稿を書き記したのは終戦後40年を過ぎた昭和61年（1986）前後で闘病生活中に人生を回顧し、日本人に真実を知らせ「自信を持って生きよ」とエールを送ったのです。今月15日の終戦を迎えるにあたりで電子書籍化し公開、多くの人たちに読んでもらいたいと思います。無料ですので、興味のある方はもちろん日本を愛する人にお勧め致します。

第二次大戦の

戦勝国

日

本

著者 水方人子

編者 喜早天海

日本語人の書いた本

(1) 2020/5/19『金花回顧録』

本書は2007年4月に日本自分史学会主催の「私の物語り、日本自分史大賞」コンテストにおいて見事国際賞を受賞した1921年（大正10）生まれの曹劉金花さんの作品です。

ちなみに、本書は著者が一人の女性が、妻として、母として、職業婦人として、看護婦、助産士を一生の職務と志を立て40年余りを医学界で生き抜いてきた物語です。

金花さんは謙遜して「私のつたないもので、価値があるかどうかもわからない。しかし時代によって変わる文化、考え方、当時の苦勞などが、この本を通して皆さんに理解してもらえたらありがたい」と序文で述べていました。

本書の中には彼女の人生哲学が随所に見受けられます。

「人間は苦勞に耐え忍び困難に立ち向かう勇気があれば必ず明るい未来を得ることが出来る。」

「社会のお役に立てるよう立派な人間になろう。」

「言うは易く行なうは難し。」

「心和やかに暮らそう。病気はきっと治る。」

「人生とは自分の幸せを見つけること。」

「私は常に心の鏡、良心を磨き続けてきた。良心が曇ると善悪の判別が出来なくなる」

コロナ禍にあって読書する時間の余裕が出来き、以前金花さんから頂いた回顧録を再度読み直している昨今です。



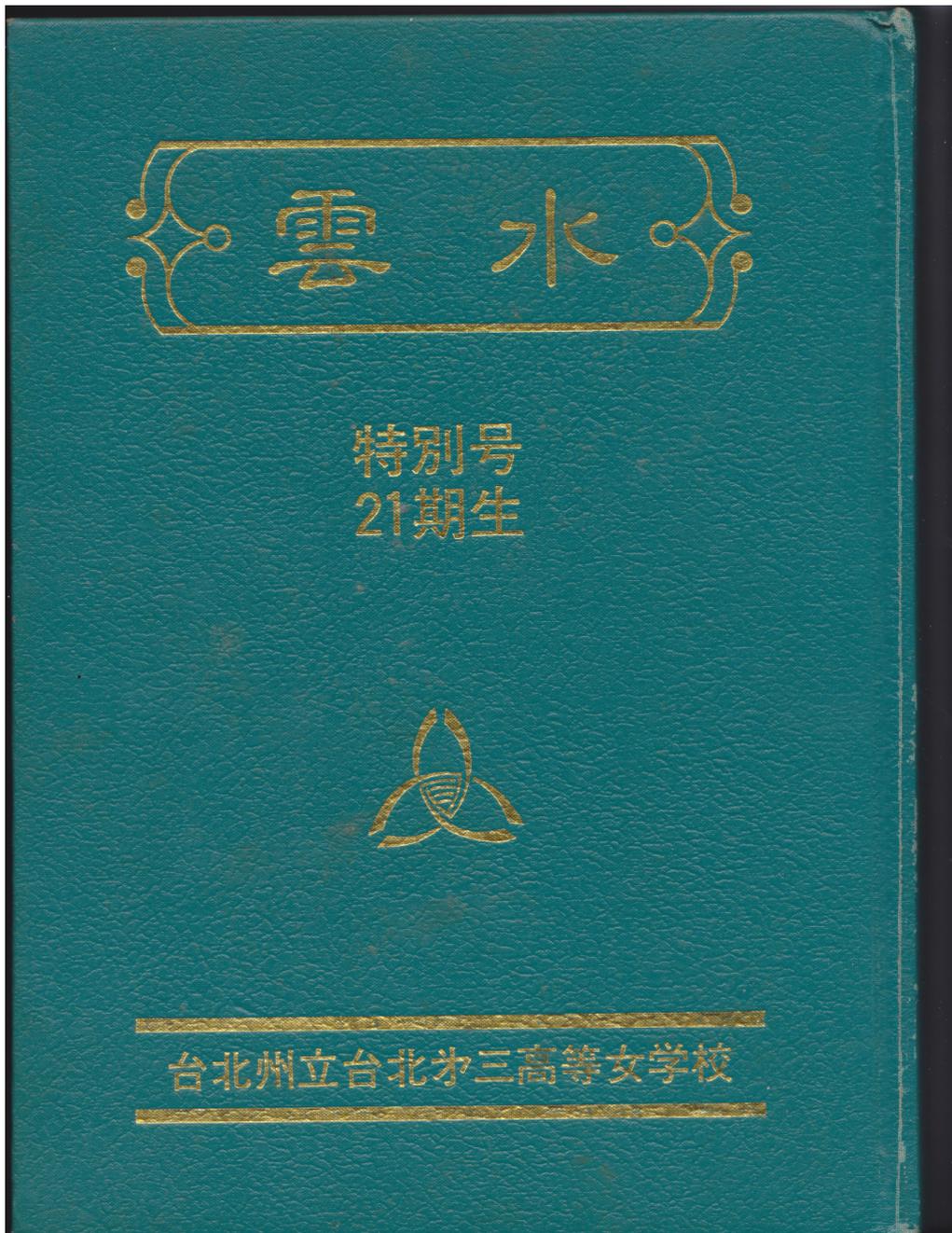
金花回顧錄.jpg

(2) 2020/5/22 『雲水』

本書は1944年に卒業した台北第三高女21期生による会誌で恩師の飛行機事故死がきっかけとなり、1975年12月に第1号を出して以来16年にわたり10号まで発刊したものの中から抜粋し、1991年10月に特別号として発刊されたものです。

『雲水』という題名は、行雲流水から出たもので、よき師、よき友を求め、雲の如く水の如く集まる、という意味で選ばれたそうです。

第一、第二高女は、日本人子女が殆どだったのに対し、第三高女には、台湾中から選ばれた優秀な女学生が集まっていました。卒業後も同級生と話す時は日本語であり、戦後30数年、その間、日本語とは無縁の日々が続いたろうにもかかわらず、何と素晴らしき人たちでしょう。本書には21期生に関わった先生方の投稿文も含まれ、懐かしい思い出、美しい師弟の情、級友との友情やまた21期生の作った和歌なども掲載されているのです。本書は日本と台湾の絆を結ぶものとして後世に残しておきたい貴重な宝物になっています。本書を贈呈してくれた呉恋雲さんをはじめ、蔡さん、林さんらと2,3回お茶会でお会いし直接生の声を聴けたのは10年も前のこと。今では第三高女の皆さんのほとんど既に天に召され、あの世でも同窓会を開き日本語でおしゃべりしていることでしょうね。



雲水.jpg

(3) 2020/5/25 『竹園慕情』

戦前の日本統治時代は州立台南二中（現国立台南一中）は主に台湾人子弟の通う学校でした。この学校の第19期生が母校を離れて50周年の1997年8月に文集「竹園慕情」創刊号を出版、その後大体一年に一刊の割りに出版が続けられて一昨年の第10号をもって最終刊となりました。この間、原稿収集からタイピング、編集、校正そして印刷、発送と10年にわたり一人で頑張ってやりぬいたのは陳敏郎さんです。ふとしたきっかけで最

終刊が手に入り、その後本人とも会うことができました。このタイトルが気に入ったので「どうしてこのタイトルが？」と尋ねたら、竹園の名は当時学校が竹園町にあったことに由来すると伺い合点した次第です。

その最終刊の中から特に陳さんたちの恩師泰一則先生の手書かれた「勇気ある質問」を別稿で紹介したいと思います。

陳さんはあとがきの中で下記のように述べられています。

「泰一則先生は台湾に生まれ育ち台湾で最終教育（台北帝国大学文学部）を受けられ、身も心も我々と同じ純粋な台湾人である。たまたま「竹園慕情」の最終刊であるが、先生の名文「勇気ある質問」を敢えて重複（10年前の創刊筆頭文）登刊した。」

竹園慕情

第8刊 2004.12



前州立台南二中第19期生文集
（現國立台南一中）

竹園.jpg

（4）2020/5/27 林啓三作品集『ガジュマル』

今日は最終回です。作者の林啓三さんとは30数年來のよき友人で、尊敬する日本語人の一人です。大正14年生まれのエさんは、終戦の時は20歳でした。「戦前日本教育を受けた台湾人は日本語を話す場を失い、今まで日本を通して日本や西欧文明が途切れ、これ

は非常に悲しいことである。」と語っておりました。

その林さんからは日本時代のことや中華民国になってからのことなど色々と教わりました。残念なことに彼のような生き証人は、ほとんどいなくなっていました。でも林さんは存命中の2006年から2016年までの間、日本文の作品集を肉筆で書きあげ5冊の本を作って私達に残してくれたのです。2017年2月に台日会に多大な貢献を残した林さんの死を悼んで、未公表の文章やこれら5冊の本の中から抜粋して作った『ガジュマル』は協力者のおかげで、思い出深い忘れることのできない大切な本となり、ぼくの本棚を飾っているのです。



林啓三 5.jpg

むかし日本人いま台湾人

良書紹介『昔日本人、今台湾人』

台中図書館に行った時見つけた本でなぜか門外貸出禁止で館内のみ閲覧となっております。

大正から昭和にかけて生まれた台湾の日本語世代は少なくなっているとはいえ、貴重な

時代の証言者であり、日台の絆をつむいできた人々です。

台湾の日本語世代は、日本の統治時代について「何を見、感じ、考え、体験したか。先人たちからどのようなことを聞き、子や孫たちにどのように語り聞かせてきたのか」——戦前、花蓮県瑞穗に生まれ育った「湾生」の松本治盛（まつもと・こうせい）氏には

とても気になっていたことで、このほど85歳から101歳まで22人の「最後の日本語世代」に

話を聞いてまとめたのが本書です。

日本の教科書などでは、皇民化教育で台湾の人々は神社を強制参拝させられ、改姓名も強制された

というような記述を見かけますが、果たして台湾の日本語世代の人々はどのように見、感じていた

のでしょうか。

編著者の松本氏は映画「湾生回家」（2015年公開）に出演し、当時の体験や“故郷”台湾に寄せる

熱い想いを語っていますが、本書は、この松本氏の司会による日本語世代4人の座談会と、

18人の個人的体験を聞き書きした

2部構成で、それら一つひとつの証言が台湾の日本統治時代の“真実”を浮き彫りにする得難い

内容です。是非手にとってご覧になってみてください。

【明日香出版社 発行：2019年7月 定価：1,296円（税込）】

むかし「日本人」

歴史の日本語研究

「日本人」として定着した語彙を、
いま「台湾人」として掘り起こす

いま『台湾人』

およそ開国前には
存在しなかった
言葉の羅列
国境もないのに
列強が争い続け
狂騒曲で続いている
日本と台湾
を、どうして
日本統治時代を
歴史の研究が
掘り起こすのか



第三章 山歩き

溪頭（溪頭森林遊楽区）

今年一年間溪頭に週一の割合で計 50 回も行った計算になります。台中からバスに乗って一時間半で九時過ぎに大抵着きます。溪頭はシルバー族が多いので別名ラホヤー（お年寄り）のメッカとも呼ばれているんです。何と云っても、65 歳以上はバスは往復（半額）で 180 元、入園料は一般は 200 元がたったの 10 元だけ。ですから、一日中森林浴しながら園内を歩き廻ったら運動不足や健康にもよくここに来てガンの病気が治ったと言う人もいますよ。

「溪頭森林遊楽区」は、人口で造形された部分が多いとはいえ、約 70 年も経ってしまっ

ては、言われなければわからないくらい美しく、自然な森林に仕上がっています。中でも多くの人を訪れる必見スポットは、樹齢 3 千年に近い神木、天然の湿地から開拓された大学池、全長 220m、高さ 22.6m の空中廊下、台湾固有の竹類と世界の竹類の珍種 46 種を収集している世界でも貴重な竹植物園である竹類標本園。台湾で唯一のイチョウ林などです。特にイチョウは溪頭の気候がイチョウの植栽培に適していたのか、100 年近くになるのに、四季折々の美しい姿で多くの人々を魅了しています。台湾に住んでいると紅葉にはお目にかかれな思っていました、ここに来れば銀杏並木に出会えるというわけです。

（大学池）

大学池には孟宗竹で作った弓形の橋がかかっている、なかなか絵になる風情です。

池の周辺に植えられたアメリカ産の落羽松や二葉松が更なる美しさを添えているようです。橋の重量は 10 人まで。ぎしぎしと歩くたびに音がします。後から知ったのですが、大学池の水深は 10m。天然の湿地帯を池にしたそうですが、結構深いですね。モスグリーン色の池は、底の底まで植物なんでしょうか…。池付近には鳥類も多く棲息しているようで、そこかしこから様々な鳥の声が聞こえてきます。ホーホケキョって、何回も響き渡っていました。

（日本とのつながり）

金平亮三記念樹という今から約 100 年前に植えられた太くてずっと高く伸びた木の横に、説明書きがあることを最近ネットで知り、実際に目で確かめました。



金平博士（1882～1948）氏は、岡山県出身の植物学者であり、林学者。東京帝国大学を卒業して、1910年台湾総督府技師として来台。1912年台湾樹木解剖学を研究し始め、林業博士を取得。1917年には台湾樹木の分類作業を行い、台湾樹木誌の初版を発行しました。1928年に帰国し、九州帝国大学教授となり、フィリピン、ニューギニアなどでも植物や森林資源の調査を行いました。1933年と1935年に2度来台し、資料を収集した後、台湾樹木誌2版目を発行。その後著書「南洋群島植物誌」で日本農学賞を受賞とあります。

この金平博士の植樹した樹に並んで、「台湾植物の父」と称される早田文蔵博士（1874～1934）と日本で「公園の父」と称された本多清六博士（1866～1952）らが植樹した樹もあります。台湾のことわざの「先人種樹 後人乗涼」の通り、私たちが溪頭で森林浴できるのもこのような先人たちのお陰ですね。

ホームページ <http://www.exfo.ntu.edu.tw/sitou/cht/> (中国語)

宜蘭、太平山で過ごした3日間

太平山は阿里山や八仙山と並んで台湾三大林場と言われていました。今月2日から3日間

以前から行きたかった太平山に初めて行って来ました。平日は宜蘭から一日一往復のバスが

運行され、片道3時間ぐらいかかります。終点太平山荘付近は、下界が真夏の天気でも、ここは21度前後。太平山荘から約500段の中央階段があり、途中に食堂、喫茶店、宿舎、トロッコ鉄道などが階段の両側にあり、食事のたびに宿舎からこの階段を上り下りしなければなりません。でも階段途中にあったモミジ、喫茶店の店さきにあったアジサイの花

などを見ながら登り、階段を登りきったところにお宮が。その裏手が鐵杉林登山歩道の

スタート地点、人間仙境標高2000Mの碑がありました。ここから終点の頂上まで1.3キロ

往復3時間余の道のり。無理せずに登れ、マイナスイオンが豊富なので滞在期間中連日

このコースを歩いて森林浴を楽しんできました。

頂上にある展望台からは最初の着いた日は午後で霧がかかって全然見えませんでしたが、翌日からは午前中登ったこともあり、周囲の山々の稜線が見渡せ最高の眺めでした。

また太平山荘付近の山々も時間によって、霧が出たり雲がかかったりで刻々と風景が変化し、また3日の夜は満月も見えてまるで山水画の世界にいるような感じでした。

最終日の帰り、バス停付近の道端に珍しい花が咲いていました。帰ってから調べてみると

ホタルブクロとわかりました。今回の太平山行は、昨今のコロナ禍を忘れさせてくれた3日間でした。



国光バス.jpg



DSCN2290.JPG

馬告生態公園にある神木エリア

神木は阿里山が有名ですが、ここ宜蘭県大同郷にある馬告にも沢山の神木がありました。ここに行くには事前申請が必要で、神木エリアに行くには途中で10人乗りのミニバスに

乗り換えて行かなければなりません。海拔約1500メートルの山にある神木は樹齢が2560年もある巨木（ヒノキ）をはじめ51本もありました。それぞれの木には中国史上有名な司馬遷や孔子などの名前になっており、遊歩道（2,3キロ）沿いある神木をガイドさんが色々説明してくれていました。2時間くらい歩きまわり、新鮮な空気を吸いながら森林浴して下山しました。





棲蘭 2-1.jpg



棲蘭 6.jpg

塔塔加裕遊憩区

海拔 2,610m の塔塔加は新中横公路の頂上にあります。塔塔加（TATAKA）とはツオウ族の言葉で広大な草原を意味します。ここからは、高く聳える山や幻想的な雲海のほかに、秋の紅葉、春になると高山植物の花が咲き始めます。園内の塔塔加エリアには観光センターやレストラン、解説施設などが完備されており、遊歩道も揃っています。鹿林山や麟趾山の山頂からは、玉山山脈や阿里山山脈、中央山脈南部の山岳が見えます。塔塔加（タタカ）とはこの地に昔から住む原住民ツオウ族の言葉で「広大な平原」を意味します。確かにこの辺りは周囲の急峻な山の中にあって比較的平坦な地形です。





DSCN2375.JPG

苗栗県三義郷にある三角山三角山

快晴に恵まれた日曜日の今日の半日は、三角山にトライ！ 台中から鈍行電車に乗って半時間、三義駅で下車し山を目指し歩きました。山と言っても 600 メートル足らずの山で、登山口から頂上まで一時間程度。途中眼下に見えたのは蛇のように横たわる高速道路と三義の町並み。頂上には涼亭と鉄塔もありました。そして駅前には木彫りの置物が。そう、この街は彫刻で有名なんです。ここには彫刻博物館もありますよ。





DSCN2411 頂上.JPG

第四章 李總統

台中市にある李總統の揮毫したもの

台中市内にある李總統の揮毫したものが5か所にあることを台中市長も知らない。

- 1 台中日本人学校新校舎（大雅区）
- 2 清水国民小学校（創立百周年）
- 3 宝覺寺（元日本兵の慰霊碑）
- 4 台中港区芸術中心—当初李總統に揮毫をお願いした時は「芸術館」だったのに、なぜか「芸術中心」に変更になり急遽この横額は人目につかない所におかれてしまった。
- 5 白冷圳導覧図—この導覧図は白冷圳の管理組合の事務所に飾られてあり、写真を撮って初めて李總統の揮毫があるのを発見した。



1



2



3



4



5

李總統を悼む

李前總統が今夜7時24分に逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。





(台中日本人学校と李総統)

先の 921 大地震で台中日本人学校が現在の敷地に再建できたのも李総統のお陰です。そして校門の表札もわざわざ原稿を毛筆で書きあげてくれたのです。世界中の日本人学校で唯一台中校だけがその国の元首の揮ごうした表札なのです。台中校関係者はいつまでも李総統のことを後世に語りついでいきます。



朝日新聞 天声人語 (2020.8.1)

週刊朝日に連載された「街道をゆく」で司馬遼太郎さんが、台湾で見かけた犬のことを書いている。日本の植民地時代を生きてきた老人に飼い犬の名を尋ねると一呼吸置き「ポチです」。これぞ日本という名ゆえに、司馬さんは「言いようのない寂しさ」に沈む▼日本の支配をくぐり抜けた台湾の人たちは、それぞれに日本式の名を持つ。97歳で亡くなった元総統李登輝氏は「岩里政男」だった。台湾で生まれ育ち、京都帝大に学び、学徒出陣で日本陸軍に入隊した人である▼終戦翌年に故郷へ戻り、40歳を過ぎてから政治の道へ。1988年、総統に登用された際は「傍流」「短命」と軽んじられた。それでも母語である台湾語を活かし民主化に奮闘。総統の直接選挙を実現させた「犬が去って豚が来た」。台湾でよく聞く言葉である。半世紀に及ぶ日本の支配がようやく終わったが、入れ替わるように大陸から外省人が押し寄せる。台湾の本音そのものだ

統在任中も退任後も、李氏は日本支配に対する嘆きや恨みを公言しようとはしなかった。自宅を訪れた日本人記者の目の前で、曾文恵夫人を「ふみえさん」と呼んだことも。好むと好まざるとにかかわらず、日本語をすり込まれた歳月の長さを思わせて、やはり寂しい▼「台湾の運命は自分たち台湾人が決める」。苦難と屈辱に耐え、「民主先生」と呼ばれた李氏の揺るがぬ信念である。政治においても言語においても、台湾とは何かを追求した稀有な哲人政治家であった

終戦と李総統

去る 10 日、友人らと故李総統の追悼式場となっている台北賓館に行き最後のお別れをして来ました。

遺影の前は献花で埋めつくされ、「千の風になって」の曲が流れており、李総統にお別れの多数の

メッセージカードも紹介されていたので、ぼくも「台湾のために、また日本のために多大な尽力、

誠に有難うございました。」と記して来ました。





明日 15 日は日本が戦争に負けた日でもある日にも関わらず、敗戦記念日と言わず、終戦記念日と
なっています。でも当時日本の一部領土だった台湾は帰属先が明記されないまま、日本
から
引き離され、まさに台湾にとってこそ終戦記念日なのです。日本政府は戦後処理に大き
な汚点を
残していると思います。それはかつて日本国民だった同胞の台湾人に対して「元日本人
の 皆さん

ご迷惑をおかけしました、ごめんなさい。」と一言のお詫びすらしていないのです。
もし李総統の国葬が挙行される時には、是非とも日の丸の旗をつけた政府専用機に乗っ
て上皇陛下か

安倍総理に参列してもらい元日本人を代表する意味で李総統の遺影の前で今までの非礼
を詫び

一言挨拶してもらいたいものです。

中国政府から文句を言われたら「これは、日本人として、人として当然の道義的責任を
果たす行為である。貴国からとやかく言われる筋合いはない。」と言い返したら、かつて
日本人の心臓はノミより小さいと揶揄した李総統は「快哉！」と天国から手を叩いてよ
ろこばれることであろう。

(補足) 林啓三さんの話

「日本は敗戦した。しかしただひとつ日本政府に叫びたいことは元日本籍だった台湾人日
本兵が

戦後中華民国の行政長官の一方的宣によって中国籍に帰したものの、そのために日本か
ら

見放される一方、お前達は曾て祖国軍に対し銃を向けた不屈者として、中華民国政府か
らも

除者扱いにされ、いわば孤児的存在となった僕らに対して暖かい言葉をかけてくれたこ
とがあった

ろうか? この道義的責任を日本国会に訴えたい!! 」

ジュディ・オングの李総統との思い出

「最後に李さんにお会いしたのは'09年に台湾で行われた映画の試写会でした。約10年ぶりの再会で

したが、李さんは私を見つけるなり、『おお、ジュディ！』と声をかけてくださいました。彼を一言で表すならフランクな方。私にも、他国の大統領にも、子どもにも、誰にでも気さくに

話しかけてくださる方なんですよ」

歌手で女優、木版画家のジュディ・オングさん(70)は、台湾の李登輝元総統(享年97)との思い出を

そう振り返る。“ミスター・デモクラシー”こと李元総統が多臓器不全などで亡くなった。日本統治下の台湾に生まれた李元総統は、住民による初の総統直接選挙を実施するなど、台湾の

民主化に尽力した人物だ。台湾と日本、二つのルーツを持つ者同士として、李元総統はジュディさんを特別気にかけていたという。

「97年、台湾で開いた私の木版画展に李さんが来てくださったんです。それが私たちの出会いでした。15分ほどの滞在と聞いていたのですが、李さんは1時間近く、私の作品を見てくださいました」

「22歳まで日本人だった」と公言するなど、李元総統は大の日本好きでもある。「李さんは私の

木版画を見て、『ああ、これは京都の南禅寺だね！』と懐かしそうにおっしゃっていました。

京都大学に通われていたから京都に思い入れがあるのでしょうかね。お話しされる日本語も、古き

良き時代のものでした。久しぶりにお会いすると、『どうしておった？』とおっしゃるのですが、

そう言われると和の心を感じるんです。『ふるさと』など、日本の童謡も大好きでいらっしやいま

した。台湾でお会いすると周りに中国や台湾の記者さんが多くいらっしゃるのですが、そんなときでも李さんは私と日本語でお話しになるんです。日本への郷愁の思いがあるか

ら、少しでも日本語を喋りたかったのかもしれませんが。訃報をお聞きしたときはショックでしたが、明るい李さんのこと、きっと天国で『泣くなよ、ジュディ!』と笑ってくれているはずですよ」台湾の偉大な政治家は、その人格でも人々を魅了してやまなかったのだ。

『FRIDAY』2020年8月21・28日号より



(木版画展で日本語で話し合う)

(追記)

作家でエッセイストの阿川佐和子さんのコメント (父親は友の会会長阿川弘之さん)

「李登輝さんが日本の首相だったらよかったのに。こんなに日本の歴史に詳しくて、日本の置かれて

いる状況を感情的にならず冷静に判断することができて、しかも日本をここまで深く愛している人は

日本人にもいない。首相をやったださらないかな、と心から思った」

李總統に関すること

李登輝總統に関すること

李登輝總統（1923/〈大正 12 年〉/1/15～2020/7/30）は、台湾（中華民国）の政治家、農業経済学者及び宣教師。第 4 代中華民国總統（7 期途中昇格・8 期・9 期、1988 年- 2000 年）。コーネル大学農業経済学博士、拓殖大学名誉博士。信仰する宗教はプロテスタント・長老派。日本統治時代に使用していた名は岩里政男（いわさとまさお）。本省人初の中華民国總統で、「台湾民主化の父」と評価される。日本においては、「22 歳まで日本人だった」の言葉や、日本語が話せることなどから親日家と日本においては、「22 歳まで日本人だった」の言葉や、日本語が話せることなどから親日家としても知られた。



中学時代

概要

蔣経国の副総統として補佐し、その死後は後継者として中華民国の歴史上初めてとなる民選総統であり、なおかつ本省人出身者では初の総統となった。中華民国総統、中国国民党主席に就任し、中華民国の本土化を推進した。

中華民国が掲げ続けてきた「反攻大陸」のスローガンを下ろし、中華人民共和国が中国大陸を有効に支配していることを認めると同時に、台湾・澎湖・金門・馬祖には中華民国という別の国家が存在すると主張した（二国論）。国共内戦の一方的な終結宣言により[5]、内戦を口実にしてきた動員戡乱時期臨時條款の廃止で中華民国の民主化を実現し、国家統一綱領に基づいて中華人民共和国との統一交渉も開始しつつ、第三次台湾海峡危機では中華人民共和国の軍事的圧力に対して中華民国の独立を守った。

総統職と国民党主席を退任した後は、「台湾」と名前の付いた初めての政党台湾団結連盟を自ら中心となって結成し、台湾独立運動・泛緑連盟に影響を与え続けていた。

生い立ち

台北州淡水郡三芝庄（現在の新北市三芝区）埔坪村の「源興居」で李金龍と江錦の次男として生まれる。

父・金龍は、警察補として植民地当局に出仕していた [6]。2歳年上の兄李登欽（中国語版）（日本名：岩里武則）は、第二次世界大戦で志願兵となるがフィリピンの前線で行方不明となり [7]、大日本帝国海軍二等機関兵（戦死後、「上等機関兵」）として戦死通知されている。異母弟の李炳男は、貿易業に従事した。

父方の李一族は現在の福建省永定から台湾へ移住してきた客家の系譜で、祖父の代にはアヘンの販売権を有しており、経済的に安定した家庭環境によって幼少の頃から教育環境に恵まれていた。なお、母方は閩南民系であるうえ、一族も移住後に現地コミュニティと融合していたことから、登輝自身に客家としてのアイデンティティはあまりなかった [6]。

公学校に入学した登輝は、日本名「岩里政男」を通称として父から授けられた。父の転勤に伴い6歳から12歳まで汐止公学校、南港公学校、三芝公学校、淡水公学校と4度の転校を繰り返した。淡水公学校卒業後は私立台北国民中学（現在の大同高級中学）に入学したが、1年後の1938年に淡江中学校へ転校。淡江中学校では学業に専念し首席で卒業。卒業後は台北高等学校に合格。

当時の「内台共学」教育により登輝は生涯流暢な日本語を話し、後年行われた司馬遼太郎との対談においては「22歳（1945年）までは日本人だった [8]」と語り、「難しいことは日本語で考える」と公言していた。中華民国籍取得後も、訪日時には日本語を使用していた。総統職を退いた後は台湾独立の立場を明確にした。「中華民国は国際社会で既に存在しておらず、台湾は速やかに正名を定めるべき」と主張する台湾正名運動で総召集人を務め、2001年7月には国民党内の本土派と台湾独立活動家と共に「台湾団結連盟」を結成した。形式上では既に政界を引退していたものの、独立運動の精神的な指導者と目されるようになる。このため同年9月21日に国民党中央考核紀律委員会により、反党行為を理由に党籍剥奪の処分を受けた。国民党を離れたため、その後は台湾独立派と見られる民進党と関係を深めていく。2003年9月には「もはや中華民国は存在しない」と発言して台湾独立への意思を鮮明にした。2004年の総統選挙では、選挙運動中の同年2月28日、台湾島の南北約500kmを約200万人の市民が手をつないで「人間の鎖」を形成する台湾独立デモを主催するなど、民進党候補の陳水扁を側面支援した。

しかし次第に陳水扁を批判するようになり、民進党とも距離を置くようになる。2007年1月には、メディアのインタビューを受けた際に、“私は台湾独立とは一度も言ったことがない”と発言して、転向かとメディアに騒がれる出来事もあったが、台湾の声によれば、インタビュー本文には「台湾は既に独立した国家だから、いまさら独立する必要はない。民進党は政治利用に独立を持ち出すのは控えるべき」と発言したことが明記されている。

2008年の総統選挙ではなかなか民進党の総統候補である謝長廷の支持表明をせず、しびれを切らした後援会が勝手に支持を表明する事態が発生したが、2008年3月の選挙直前に謝を「台湾が主権国家であるとはっきり言える人物」として支持表明。しかし、国民党総統候補馬英九の当選後は産経新聞のインタビューに対し、馬に協力する意向を示した。地位によって政治的主張が異なる人物のため、台湾国内では「台湾独立を諦めていないが、駆け引き上手な現実主義者」というイメージが強いとされる。

2011年6月、9期目在任中の1997年から退任する2000年までの間に国家安全局の裏帳簿から自身の創立したシンクタンク「台湾総合研究院」へ、780万米ドル（6億2700万円）を運営資金として流した一部を着服した公金横領とマネーロンダリングの罪で、中華民国最高検察庁に起訴された [54][55][56]。2013年11月15日、台北地方法院で無罪判決が言い渡された。

台湾第四原子力発電所について、2013年4月に李登輝ははっきりと核四の住民投票に行くことはないと表明し、「もし原子力発電を維持できなければ、台湾の未来はどこへ行くのか？ 風力や太陽エネルギーでエネルギー源を置き換えようとするのなら、これらの代替エネルギーは「コントロールする術が無く」、不安定過ぎて台湾の電力需給に答えられない」、「原子力発電方式は改変すべきであり」と語り、人民の台湾電力および政府に対する信頼の欠如に至っては、「台湾電力は民間に開放すべきで、例えば6社の民営電力会社に分割して小規模で進めれば、このように大きな問題は発生することはあり得ない」と主張した。

2012年4月から、「生命之旅」と称して台湾各地を視察する旅に出ている。どんな姿であれ、最後は玉山（旧称・新高山）で終わりたいという胸の内を周囲に語っている。

2013年12月、台湾で同性婚を容認する多元成家法案に対し、「私はキリスト教徒だ。聖書に何と書かれているか見てみるべきだ」と発言し、反対の立場を表明した。2016年12月には「我々の社会は自由があるだろう。男女は自由だし、どう自由にしても構わないが、家庭が必要なら子供を産むのも必要だという関係だ。家族の継続は十分に維持されなければならない、宗教上私の立場ではどうしても同意しない」と語った。

2016年7月30日、石垣島を訪問し、台湾農業者入植顕彰碑などを参観し、日台交流について講演した。訪問の際で石垣牛の美味しさに驚き、台湾和牛の産業化を研究し始め、陽明山擎天崗で戦前移入された但馬牛（見島牛とも）の末裔の牛を購入し、若い頃で働いた花蓮の牧場施設をレンタルして育成事業を開始した [63][64]。初めて繁殖を成功した仔牛を「源興牛」と名付けた。

2020年2月、自宅で牛乳が気管に入ったことで誤嚥性肺炎となり入院。7月に入って体調が急激に悪化。同月29日には蔡英文総統、頼清徳副総統、蘇貞昌行政院長らが見舞いに訪れた。翌30日19時24分頃、入院先の台北榮民総医院で死去。97歳だった。

2020年10月7日に、告別追悼礼拝を新北市淡水の真理大学大禮拜堂で行い、その後、国軍管轄施設である五指山軍人墓地（中国語版）内の「特勲区」に遺骨を埋葬された。

人物像

司馬遼太郎や小林よしのりとの対談でも時間を忘れるほど熱心に語る雄弁家である。新

婚時代、新妻に対しても遠慮なく農業政策を語り続けたため、農業には無知だった夫人も話を合わせるために農業を勉強したという。

李登輝は中国の政治家を全面否定するわけではなく、胡錦濤やその後継世代の習近平、李克強を「地方で鍛えられた優秀な政治家」と高く評価し、日本の政治家を「東京や法律でしかものを考えられない人ばかり」と批判していた。

文学・思想

中学・高校時代に鈴木大拙・阿部次郎・倉田百三・夏目漱石らの日本の思想家や文学者の本に触れ、日本の思想から影響を受ける。また、日本の古典にも通じており、『古事記』・『源氏物語』・『枕草子』・『平家物語』などを読む [71]。宗教に関しては、キリスト教長老派を信奉した。また、台湾総督府民政長官を務めた後藤新平を「台湾発展の立役者」として高く評価した。

ちなみに、若手育成のために開いた「李登輝学校」の卒業生らが、李登輝が漫画『魁!!男塾』の登場人物の江田島平八に似ているということで、PR 向けに江田島平八のコスプレを行ったことがある。これについて、主に国民党議員から「日本びいきだ」、「植民地支配肯定」などとの批判が起きた。

熱心なキリスト教徒で、総統退任後は「山地に入りキリスト教の布教をしたい」と語っていたが、さらなる民主化のため「台湾團結同盟」を自ら主導して創立した。また、『旧約聖書』の「出エジプト記」についてよく話していた。

言語

台湾の同世代に顕著なことだが、かつて台湾政府の要職を経験しながら一番得意とされる言語は日本語といわれる。それについて台湾語、英語となり、一番苦手なのは北京語で、非常に台湾訛りが強い。北京語で質問されると、それを日本語に訳して意味を理解し、日本語で回答を考えてから北京語に訳すという、日本人と同様のプロセスで返答していたことから、外省人の記者たちからは「李登輝の北京語は、どうしてあんなにめちゃくちゃなのか」と言われていた [29]。この不得手さを逆手にとって、宋美齡の側近に「宋美齡の北京語は浙江訛りが強いので、今後用件は文書で送付するように」と要請、発言を記録化し宋美齡の権力を失墜させた。

上記のように、日本文学を多く読み、岩波文庫の蔵書数を誇ったり、日本のオピニオン雑誌『中央公論』『文藝春秋』を愛読するなど、情報処理や思考の面で多く日本語が介在したとされる。そのため、記者会見など公の場でも特定の単語を日本で使用される呼称をそのまま現地語で発音することがあり、台湾では「波斯（ペルシア）湾戦争」と表記される湾岸戦争を「湾岸戦争」のまま中国語読みしていた例も確認されている [75]。文恵夫人を日本語読みで「フミエ」と呼ぶこともある。

なお、娘たちの学習は自由意志に委ねており、2人とも本格的な日本語教育を受けず英米に進学した。

否定的な評価

康定級フリゲートの購入や党の資金を使った投資プロジェクトからのキックバックなど、金銭をめぐる疑惑が少なからずあった [76]。自身の影響力を維持するため党内に金をばら撒いたり、選挙で優位に立つため暴力団を頼ったりした事もあったとされる [77]。これらの裏金は国外への工作にも使用され、国交維持を目的として南アフリカ共和国に巨額な資金提供が行われたほか、日本の橋本龍太郎、アメリカのカート・キャンベルやポール・ウォルフォウィッツなどがロビー活動の対象として挙げられている]。

また本省人アイデンティティに傾倒し他のエスニックグループから反感を買っていた。

2000年の総統選挙では、ともに改革に取り組み党内で辣腕を振るった宋楚瑜を排し、与し易い連戦の擁立に固執した。宋楚瑜は無所属で立候補して連戦と票を食い合い、民進党の陳水扁を利することとなった。結果政権交代となり、後に登輝自身も党主席辞任を余儀なくされた。その後の登輝は国民党批判を公然と行い、その変節ぶりと政治関与の継続は批判の的となった。

日本との関係

親日の政治家・言論人として知られる。産経新聞連載「李登輝秘録」の取材で、同紙記者が台北郊外の李登輝宅を訪れたとき、李登輝は右手を首まで水平に持ち上げ、「僕はここまで、22歳まで日本人だったんだ」と発言している [79]。日本の親台派からは、その親日ぶりが高く評価されている。先述のように、日本の漫画の登場人物のコスプレをするなど、日本のエンターテインメントにも関心を寄せている。

台湾における教育改革にも心を砕き、「(国民党政権の) 反日教育をやめさせ、台湾の子供たちに正しく日本と日本人を理解させなければ」と考え、1996年には新たな中学の教科書「認識台湾」を作らせた。それ以前の教育では大中華主義の歴史観で台湾の歴史や地理は教えず、また日本統治時代は一律に否定していたが、李登輝は戦前に普及した教育の制度やインフラ建設など日本の功績を認める記述を取り入れ、その結果、若い世代が日本に親しみを感じる傾向が強まったという。

靖国神社問題では2007年5月末から6月初旬にかけて訪日した際、日本外国特派員協会で開かれた記者会見で「“靖国問題”とは中国とコリアがつくったおとぎ話」と発言した。

台湾も領有権を主張する尖閣諸島を「沖縄県に属する日本固有の領土」として [80]、2008年9月24日には訪問先の沖縄で再び日本領土だと発言した。また、「おネエちゃんがかきれいだからといって、私の妻だと言う人間がどこにいるのだ」「尖閣諸島周辺はよい漁場で、沖縄の漁民はかつて、同漁場でとった魚を台北に売りにきた。沖縄県当局は、日本が統治していた台湾の台北州に尖閣諸島周辺の管理を委託していただけ」「第二次世界大戦後、沖縄の行政権はアメリカが掌握し、その後、日本に返還された」「日本の自衛隊が、この海域の防衛に責任を持つことになったが、台湾の漁民は(尖閣諸島周辺で) 操業することが習慣になっていたことから問題が発生した」「1972年になってから『尖閣諸島は中華民国領』と主張したことで、問題が発生した」「台湾が他人の場所に行って、魚

がとれただけでも上出来だった。それを自分の『戸籍』に入れようとは、あまりにも幼稚」と、台湾が尖閣諸島の領有権を主張していることを皮肉ったという。李登輝の発言に対して中国のインターネットユーザーは、李登輝の発言の記事を掲載したサイト「環球網」にて、李登輝を「日本の犬」「売国奴」「まだ死んでいないのか」「特殊工作員を送り、一族皆殺しにして、子孫を根絶やしにしろ」などといった、李登輝に対する罵詈雑言が飛び交っているという。「文芸春秋」のインタビューで李登輝は「前にも言ったように、尖閣諸島は日本の領土だ。日本は道理に合わないことを言う中国に譲歩する必要はない」と語ったことについて、李登輝の発言に対して台湾当局関係者が即座に反駁し、台湾総統府の羅智強（中国語版）報道官は「李登輝氏の尖閣諸島は日本領という発言は歴史事実に対し、しかも国家主権を侵害している」、国民党の邱毅は「李登輝氏の政権はとっくの昔に終わったのだ。いつまでも発言するな！」と強く批判した。

2013年4月10日に日本が調印した日台漁業協定について、「過去に日本は台湾に対して行き過ぎていたが、東日本大震災後に台湾は多くのお金を寄付したので、日本側は後に反省した。過去に日本はずっと台湾と漁業協定を署名しようとしなかったが、現在は作法を改善した。例えば、ワールド・ベースボール・クラシックの時に台湾代表チームは日本に試合に行ったが、日本の民衆も台湾チームのために応援した」と語った。

2014年、小学館発行の『サピオ』2014年2月号で、「中国という国は南京大虐殺のようなホラ話を世界に広め」、「韓国や中国は、自国の宣伝工作の一環として捏造した「歴史」を利用する。その最たる例が「慰安婦」だ」と主張[84]。2015年、『Voice』で「台湾の慰安婦の問題は決着済み」述べ、総統府スポークスマン陳以信（中国語版）に「無知ではなく冷血」、「もし李登輝が本当に慰安婦問題がすでに決着済であると考えているならば、自ら映画館に行って映画『蘆葦の歌（中国語版）』を見ていただきたい」と痛烈に批判された。

2015年8月には『Voice』2015年9月号へ寄稿した中で「70年前まで日本と台湾は『同じ国』だった...台湾が日本と戦った（抗日）という事実もない」、「当時われわれ兄弟は、紛れもなく『日本人』として、祖国のために戦った」と発言し（日本統治時代の台湾を指す）、国民党の憤激を買った。その一方で、同年9月13日に台湾の学生団体主催の講演会に出席した時は、日本統治時代を「(当時の)日本は外来政権」、「(台湾の人が)日本人の奴隷になったのは悲しい」などと語っている。

西田幾多郎の哲学に心酔しており、政治家として出処進退が問われる場面で西田哲学を拠り所にしていと語っている。また、新渡戸稲造の『武士道』や夏目漱石の「則天去私」の思想にも大きな影響を受けていた。

訪日

「一つの中国」を国是とする中華人民共和国（中国共産党）は、李登輝を「台湾独立勢力の象徴的人物」として危険視し、李登輝の訪日希望には査証を発給しないよう要求していた。ただし、李登輝は政界入り直後に日本の政治家と会談し、副総統時代にも査証発給の問題なしに訪日を実現した。2000年の総統退任以後は、計9回にわたり来日。

2001年

2001年4月、持病の心臓病治療の目的で岡山県の倉敷市を訪問した。日本政府は人道的な措置として査証発給。この騒動を主な契機として同年12月に日本李登輝友の会が設立される。李登輝もインターネットを通じて講演を行った。

2002年（中止）

2002年10月、慶應義塾大学の学術サークル「経済新人会」が同大学の学園祭「三田祭」において講演を依頼したため、その依頼を受けて訪日する意向が伝えられた。当初、講演は問題なく実現するかにみられたが、11月7日に学園祭の実行委員会が講演を却下した。その後、会場を別にして講演が行われる予定だったが、日本政府が李登輝への査証の発給を拒否。訪日と講演は実現しなかった [90]。講演予定だった内容は、11月19日付け産経新聞朝刊で「日本人の精神」と題して全文が掲載された。

その後2004年、2007年、2008年、2009年、2009年、2014年、2015年、2016年、2018年と訪日している。

第五章 コロナ禍

台湾天才デジタル大臣オードリー・タン

台湾

オードリー・タン「台湾が新型コロナ感染を防止できた理由」

こんな人材が日本にも欲しかった。オードリー・タン。2020年に全世界を襲った新型コロナウイルスの封じ込めに成功した台湾。その中心的な役割を担い、世界のメディアがいま、最も注目するデジタルテクノロジー界の異才が、コロナ対策成功の秘密、デジタルと民主主義、デジタルと教育、AIとイノベーション、そして日本へのメッセージを語る。本連載はオードリー・タン著『オードリー・タンデジタルとAIの未来を語る』（プレジデント社）の一部を抜粋し、再編集したものです。



オードリー・タン 台湾デジタル担当政務委員（閣僚）

「ロックダウンは良い効果を生まない」という教訓

SARS の経験を活かした台湾のコロナ感染拡大防止策台湾は今年（2020年）、全世界に感染が広がった新型コロナウイルス（COVID-19）の封じ込めにいち早く成功しまし

た。これは蔡英文総統が語っているように、「医療専門家や政府、民間、社会全体の努力」が合わさった結果です。台湾では、ウイルスの正体が明らかになる前から、水際での感染拡大防止に全力を傾けました。具体的には、1月20日にいち早く衛生福利部（日本でいえば厚生労働省）の下に「中央感染症指揮センター（Central Epidemic Command Center、略称 CECC）」を設立し、各部会（日本でいえば省庁）が連携して防疫対策に臨む態勢を構築しました。そして、1月21日に武漢から帰国した台湾人女性の感染が確認されると、翌日には武漢からの団体観光客の入国許可を取り消し、24日には中国本土からのすべての団体観光客の入国を禁止しました。同時にスマートフォンを活用して、感染経路の確認および感染者と接触した可能性のある人たちを割り出し、全員に警告メールを送りました。さらに、民間企業にマスクの増産を要請し、それをすべて政府が買い上げて、すべての人々に行き渡るような策を練りました。こうした素早い対応で感染拡大を防いだ結果、台湾では他国で行われたようなロックダウン（都市封鎖）や学校の休校、飲食店の強制休業などを行う必要はありませんでした。ロックダウンは確かに封じ込めに効果を発揮しますが、経済面の代償を払わなくてはなりません。「新型コロナウイルスの蔓延」という危機的な状況の中でも、社会そのものの繁栄を考えをめぐらせなければなりませんし、その一方で防疫対策も行わなくてはならないのです。「社会の繁栄」と「防疫対策」を両立させることに成功したのは、台湾に健全な民主主義体制が根づいている証拠だと思います。台湾は日常生活を維持しながら防疫に成功し、その結果として、コロナの逆境下にあっても、GDPのプラス成長を実現しました。経済、民主主義、人権のどれをとっても、大きな損失は受けていません。そして、その後、「台湾は手助けできる（Taiwan Can Help）」というスローガンを掲げ、各国に大量のマスクと防護用品を送る医療外交に着手しました。こうした台湾の行動は、世界的にも注目を浴びました。台湾が今回の新型コロナウイルスの感染拡大防止に成功した理由の一つに、2003年に流行したSARS（重症急性呼吸器症候群）の経験が挙げられます。台湾では、SARSによって、346人の感染者と73人の犠牲者を出しました。また、台北市内の病院が二週間にわたり封鎖されるという事態も起こりました。そのとき、「ロックダウンは決して社会的に良い効果を生まない」という教訓を得る一方、「マスクの着用は、感染予防の効果が高い」という知見を得ることができました。ただ、当時は「感染防止のためには『N95』という外科用のマスクでなければ効果がない」と言われ、医療関係者など本当にN95が必要な人たちにマスクが行き渡らないという問題も起こりました。当時の現場は、本当にカオス状態だったと思います。前述したCECCのような防疫対策の専門組織もなかったもので、「中央政府と地方政府で言っていることが違う」とか、「誰に情報をもらえばいいのか」など、人々から不満の声が上がりました。SARSが収束したあと、政府はそうした課題を一つずつ検討して解決してきたのです。

なぜ台湾の人々は「コロナ危機」を共有できたのか

正しい知識を身につけ、一人ひとりがイノベーションを図る新型コロナウイルス対策に当たった蔡英文政権の面々は全員、SARSのときの経験を共有しています。疫学研究者出身の陳建仁・前副総統（2020年5月で退任）をはじめ、多くのメンバーがSARS流行

前後で重要な役職に就いていました。また、現在の政権内には、感染症や公衆衛生の専門家がたくさん含まれています。これは、公衆衛生の観点から言えば、「少数の人が高度な科学知識を持っているよりも、大多数の人が基本的な知識を持っているほうが重要である」ことを学んだ結果だと思います。基礎的な知識を持っている人が多ければ多いほど、情報をリマインド（再確認）し、お互いに意見を出し合ったり、対策を考えることができます。逆に、少数の人のみが高度な科学知識を持っているだけの状態では、何が起きているか理解していない人が多いということです。想像してみてください。もし前代未聞の出来事が起きたときに、誰にも相談できず、あなただけに決定権が託されたとしたら、果たして的確な判断を下せるでしょうか。このことから情報の共有がいかに大切なものなのかがわかんと思います。それとともに重要になるのが、「エンパワー（empower）」の概念です。これはトラブルやハプニングに直面した際に、すぐ反応して状況を変えていこうとする力を意味します。誰かから強制されなくとも、主体的に動き、困っている人に積極的に手を差し伸べる。多くの人がそうした力を持つことで、困難な問題も解決に導くことができるのです。今回の新型コロナウイルス禍で台湾の人々がとった行動は、まさにそうしたことだったと思います。台湾の人々は、17年前のSARSで「ウイルスは社会を震撼させるものである」ことを知ると同時に、多くの教訓を得ました。具体的には、「仮に症状が出ていなくとも、ウイルスは感染する」といったようなことです。そのため、台湾の人々は「なぜ新型コロナウイルスへの対策を厳重にしなければならないか」という理由をよく理解しています。台湾の街中で、誰かに「なぜ石鹸で手を洗わなければならないか」と聞いてみてください。聞かれた人は間違いなく、「石鹸で洗えば、ウイルスを洗い流せるから」と答えるでしょう。水で洗うだけでは意味がなく、石鹸を使わなければ洗っていないのと同じであることを理解しているのです。逆に言えば、「このウイルスは石鹸を使えば、洗い流すことができる」という基本的な知識を持っているわけです。そこが重要なところですよ。台湾の人たちは、CECCが毎日発表する記者会見での情報を真剣に受け止め、「新型コロナウイルス」という新しい感染症に対する知識を深めていきました。そして、「自分のいる場所でいかにしてより良い方法でウイルスに対抗していくか」を考え、一人ひとりがイノベーションを図っていったのです。民主主義社会においては、イノベーションは社会全体に広がっていきます。決して中央にいる一握りの人たちが他の多くの人々に強制するものではありません。ですから、中央の状況と他の地域の状況が異なっていれば、それぞれに適合したより新しい方法が生み出されていきます。それは、台湾の人々がこのウイルスの仕組みを正確に理解していたからであると言えるでしょう。このようにして、政府と人々の間にパンデミック（世界的大流行）に備えるための意識が共有されていきました。今回、「手洗いの徹底」「ソーシャルディスタンスの確保」「マスク着用」といった政府の要請を、人々がすぐに実行に移すことができたのは、この意識の共有が一番大きなポイントでした。

「マスクを三枚まで購入できる」を実行できた理由

コロナ対策の重要テーマとなったマスク問題をいかに解決したか新型コロナウイルス対策に関して、政府が対処しなければならない大きな問題の一つがマスクの供給でした。

SARS のときの反省を踏まえて、医療関係者には独自の流通経路が確保されていまして、問題が起きませんでした。一般の人々に対して「いかにして早くマスクを届けるか」が大きな課題になりました。当初、政府は「コンビニエンスストアやドラッグストアで誰もがマスクを三枚まで購入できる」という政策を進めました。しかし、一人の人が複数の店舗でマスクを購入するという問題が発生しました。あるコンビニでマスクを購入した人が、隣のコンビニに行ってまたマスクを購入したとしても、店側はチェックのしようがありません。実際、この方法を始めてすぐにマスクが品切れになり、パニックが起きそうになりました。台湾でコンビニを管轄している政府機関は「経済部」（日本でいえば経済産業省）であり、マスクの製造も同様に経済部の管轄です。しかし、経済部はいくつかの部局に分かれていて、コンビニについては「商業局」や「中小企業部」「国際貿易局」などが関係し、マスク生産については「工業局」が関係するなど、それぞれ職掌が異なりました。そのため、まず、経済部内で各部門間の調整をする必要があったのです。次に、どのようにマスクを各地に配送するかについてですが、これは経済部だけで対処できる問題ではありません。経済部はビジネスや取引のために存在しているのではなく、各業界や業種それぞれの立場を守るために仕事をしているわけですから。また、感染症は「衛生福利部」（日本でいえば厚生労働省）の所管ですが、「マスクを疾病対策にいかん利用するか」という政策を担当するのは、その下部組織の「疾病管制署」です。さらに、薬局は同じ衛生福利部の下部にある「食品薬物管理署」、全民健康保険カード（健康保険証）は「健康保険署」の管轄です。このように、マスク対策に「経済部」と「衛生福利部」という二つの部と少なくとも六つの局が関わっているのです。さらに、毎日マスクの配送を請け負う郵便局は「交通部」（日本でいえば国土交通省）の管轄で、当然ここも関わってきます。このように、一つの部会では解決できない問題が生じた場合、部会間で異なる価値を調整する必要があります。こうした部会間を横断する問題をデジタル技術を使ってクリアにしていくことが、デジタル担当政務委員としての私の仕事になりました。ちなみに、現在、行政院には私を含め、九人の政治委員がいます。これらの関係部局が集まって何度もマスク対策会議が開かれました。毎回各部門から上がってくる問題について議論しましたが、そのテーマは政府内から上がってくる問題だけでは済みませんでした。たとえば、1922（政府が新型コロナウイルス対策の一環として設けたホットラインの番号）に、市民から「新しいアイデアを政府の指揮センターに伝えてほしい」という電話が入ってきた際に、そのアイデアについて議論をしたこともあります。また、「小学生の男の子がピンクのマスクを学校に行ったら、友だちに笑われた」という母親の声が寄せられたときには、これにどう対処するかを話し合いました。他にも、「マスクは繰り返し使ってよいのか」とか、「電熱釜で加熱すれば殺菌できる」という政府の公告に対して、「本当に水を入れずに加熱してよいのか」といった声が寄せられました。これら民間から上がってきた質問は、政府が想定していた内容をはるかに超えるものでした。事態が進むにつれて、「マスクを普遍的に行き渡らせ、人々に使用してもらうことは、新型コロナウイルス対策で非常に重要な価値を持つ」という認識が政府内で共有され、私たちは民間の声も重視し、情報を寄せてくれた人たちともコミュニケーションをとるようになりました。

日本 コロナ禍の一年

日本 コロナ禍の一年

2021/1/8 YAHOO

日本国内で初めて新型コロナウイルス感染者が確認されてからおよそ1年が経ちます。首都圏の感染拡大に歯止めがかからず、政府は7日、昨春以来となる2度目の「緊急事態宣言」を発出。感染拡大の防止に注力しています。これまで、いかに感染が拡大し、政府・自治体はどう対応してきたのでしょうか。日常生活が一変した“コロナ禍の1年”を振り返ります。

日本では昨年4月をピークとする「第1波」、7～8月に感染者が増えた「第2波」がありました。そして、いま直面しているのが11月ごろから感染者が急増している「第3波」です。

【第1波】

国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されたのは昨年の1月16日です。2月には初の死者が出ました。当時の安倍晋三首相は2月27日に全国の小学校、中学校、高校、特別支援学校に対し、一斉に臨時休校とすることを要請しました。海外ではこのころ、最初に感染が拡大した中国を筆頭に、国内移動や外国との行き来を制限する国が出始めました。3月12日には世界保健機関（WHO）が「パンデミック（世界的大流行）」の状態にあると表明。3月中旬以降は、罰則を伴う厳しい措置である「ロックダウン（都市封鎖）」をする国が欧州を中心に出てきました。3月下旬以降には国内の感染者が増加し、東京都の小池百合子知事が会見で「ロックダウン」に言及したことも話題になりました。そして4月7日、安倍首相が記者会見で「医療現場はまさに危機的な状況。現状ではまだ全国的かつ急速なまん延には至っていないとしても、医療提供体制がひっ迫している地域が生じていることを踏まえれば、もはや時間の猶予はないという決断に至った」などと述べ、緊急事態宣言を発出しました。また、人との接触を「最低7割、極力8割削減」することを訴えたのもこの会見のときです。当初、対象地域は東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、大阪府、兵庫県、福岡県の計7都府県、期間は5月6日でしたが、その後、全都道府県を対象を広げ、期間も延長。宣言の解除もエリアごとに段階的に行われ、5月25日に全都道府県で解除となりました。

【第2波】

5月下旬～6月中旬ごろは新規感染者が大幅に下がり、東京都でも一桁の報告となる日もありました。この頃、感染源として着目されていたのがホストクラブなど「夜の街」でした。東京・新宿区では6月に歌舞伎町で集中的にPCR検査が行われました。政府のコロナ分科会でも、第2波では「接待を伴う飲食店」などでの感染例が多く報告さ

れ、感染が全国に広がっていったと指摘されました。この時期は、感染者の多くが若い世代だったことも特徴でした。 コロナ対策担当の西村康稔（やすとし）経済再生担当相をはじめ、政府が「感染拡大防止と経済社会活動の両立」を訴えたのはこの頃のことです。観光産業の需要喚起策「Go To トラベル」など Go To キャンペーンが練られ、Go To トラベル事業は当初の開始予定を前倒しして7月22日に開始しました。ただし、感染状況が収束していなかった東京を目的地とした旅行、東京在住者による旅行は対象外となりました。 その東京都は対策として、8月3日、酒類を提供する飲食店やカラオケ店に対して9月15日まで営業時間の短縮を要請。都は10月1日に Go To トラベルの対象になりました。

【第3波】

国内の1日ごとの新規陽性者数（厚生労働省のサイトより。2021年1月7日0時時点）

第2波は、第1波のように流行のヤマが下がりきりませんでした。そして、11月ごろから新規の感染者数が再び増加。これを受け、政府コロナ分科会の尾身茂会長は11月9日、緊急記者会見を開き、「感染が全国的に見ても増加しているのは間違いない。減少要因を早急に強めなければ、いまは『徐々』にだが、『急速な』拡大傾向に至る可能性が高い」と警鐘を鳴らしました。 分科会は11月20日にも（1）酒類を提供する飲食店の時短営業（2）感染拡大地域への出入り自粛（3）Go To キャンペーンの運用見直し検討——などを含む提言を政府に示し、早期の対応を迫りました。 これを受け、政府は特に感染状況が悪化していた札幌市、大阪市を目的地とする旅行を Go To トラベルの対象から一時的に外しました。さらに、12月28日からは全国一斉に一時停止としました。第3波では、感染者数が第1波、第2波を大きく上回りました。東京都では大晦日の12月31日、1日の感染者数としては初の1000人越えとなる1337人に。埼玉・千葉・神奈川など近隣県でも年末年始にかけて過去最多の感染者を記録するに至りました。首都圏の1都3県の知事は1月2日に緊急事態宣言の発出を要請。菅首相は4都県を対象とする緊急事態宣言を1月7日に発出しました。期間は8日午前0時から1か月間（2月7日まで）です。

第六章 テレサ・テン

テレサ・テン物語

テレサ・テン

テレサ・テンが逝去してから今年で25年になるのを機に、彼女についてネット上にあったウィキペディア記事を転載してみた。

テレサ・テン（1953年1月29日 - 1995年5月8日、中華圏で使用された名前は鄧麗君〈デン・リージュン〉）は、台湾出身の歌手。1970年代から1990年代にかけて、中華文化圏全域ないし日本、タイ、マレーシアなども含めたアジアにおいて広く人気を博したその業績から、生前から没後も「アジアの歌姫」と呼ばれている。

父親は中国河北省邯鄲市、母親は中国山東省出身で共に外省人で、また父親は元国民党軍の職業軍人であり、彼女自身、軍隊への慰問活動を熱心に行っていたこともあり、「軍人の恋人」（中国語：軍中情人）というニックネームでも有名。

（生い立ち）

両親は、1949年に中国本土での内戦に敗れた蒋介石とともに中華民国（台湾）に移った外省人の中の一組だった。父親は軍人で、三人の兄と弟一人という男兄弟に囲まれて育った。

（少女スターとして）

10歳の時、ラジオ局主催の歌唱コンテストで優勝。天才少女として注目を集め、14歳の時にプロ歌手としてデビューする [1]。16歳の時、主演映画が製作され、女優デビューを果たす。その後、シンガポールやタイ、マレーシアでも人気に火が付き、18歳で香港でもレコードをリリース、アジアのトップスターとなる。

（日本進出と国外退去処分）

1973年、香港で「日本の父さん」と呼ばれる舟木稔（のちの彼女の所属レコード会社トラスレコード社長）は、アジアでのテレサ・テンの人気に目を付け、足繁く台湾や香港に通ってテレサと両親を説得。当時勤めていた「日本ポリドール」（現ユニバーサルミュージック）との契約を実現させる。

1974年、21歳の時に日本での歌手活動を開始する [1]。すでにアジアのスターだった彼女は、アイドル歌謡曲路線の「今夜かしら明日かしら」により鳴り物入りで日本デビューを果たすが、売れ行きは思わしくなく、不発に終わった。そこで演歌歌謡曲路線に転向したところ、日本でのデビュー2作目となる「空港」が大ヒットする。第16回日本レコー

ド大賞新人賞を獲得して日本でもトップ・スターの仲間入りを果たし、歌手活動も軌道に乗った。その後も香港を拠点に、台湾や日本などアジア各地を行き来する多忙な日々を送る]。

1979年2月、本来の中華民国のパスポートではなくインドネシアのパスポートで来日しようとしたため、旅券法違反で国外退去処分を受ける。当時、1972年の日中国交正常化の影響で、日本は中華人民共和国と国家の承認をし、中華民国とは国交断絶していたため、台湾のパスポートでは入国の際に非常に煩雑な手続きが必要だった。そこで彼女は、インドネシアのパスポートで「エリー・テン」という名前で入国していた。舟木稔によると、「当時の台湾の著名人（歌手や芸能人を含む）は、皆インドネシアのパスポートを所有していた」という[2]。パスポート自体はインドネシア政府筋による正式なもので、決して偽造パスポートではなかった。そのため、事件としては白黒はっきりしないグレー決着となり、彼女は1年間の国外退去処分となった。

この事件で、日本だけでなく台湾からも非難の声が上がり、台湾当局は彼女の身柄の引き渡しを強く要求した。しかし舟木は、その要求に従えば数年間は歌手活動が出来なくなるだろうと考え、彼女をアメリカ合衆国に渡らせることにした。事件から一年後の1980年、台湾政府への協力を条件に帰国を許された彼女は、中華民国国軍の広告塔として活動し、「愛國藝人」と呼ばれた。

そして、台湾での歌手活動も再開した。その後、再来日を果たすまで香港を活動の拠点にしていた。この頃『酔拳』を大ヒットさせていたジャッキー・チェンと米国で再会し、互いに思いを寄せるが、人気に溺れ取り巻きの前で侮辱行為を働いたため、失望しジャッキーから離れてしまう。ジャッキーは激しいショックを受けて目を覚ました。その後は親友となった。

（中国本土・香港での人気拡大）

1980年代初めには、中華人民共和国でもコピーされた彼女のカセットテープが出回るようになり、人々の心をつかんでいた。中でも特に人気だったのは、1930年代に中国で流行した「何日君再来（ホーリーチュンツァイライ）」（作詞：貝林作曲劉雪庵）のカバー。やがて彼女は、冗談交じりに「昼は鄧小平、夜は鄧麗君（テレサの中国語の芸名）が支配する」とまで言われるようになった。1983年には、香港でデビュー15周年を記念したツアーを行い、10万人を動員[1]。しかしその影響力を嫌がった中国共産党政府は、1983年頃にテレサの歌を放送禁止にした[1][2]。それでも人々は、ダビングしたカセットテープを回したり台湾の放送をキャッチしたりして、その後も彼女の歌を密かに聴いていたという。中華圏のCDショップでは、現在でも1982-1984年頃の香港や台湾での公演の様子を収めたDVDがよく売られている。

（日本再デビューと大ヒット）

1984年、日本の音楽ファンの強い要望もあって、再来日が許可される。レコード会社もポリドールからトラスレコード[3]に移籍、荒木とよひさ作詞・三木たかし作曲の「つ

ぐない」で日本再デビューを果たす。

「つぐない」は有線放送を通じてじわじわと人気に火が付いて大ヒット、日本有線大賞など数々の賞を受賞する [1]。翌 1985 年にリリースした「愛人」も再び荒木・三木コンビが手掛け、大ヒット。この曲で第 36 回 NHK 紅白歌合戦に初出場を果たす。「愛人」は有線放送のリクエストチャートで 14 週連続 1 位。1986 年には、荒木・三木コンビによる三曲目となる「時の流れに身をまかせ」をリリース。これも大ヒットとなり、紅白に 2 年連続出場する [1]。「つぐない」と「愛人」は、それぞれ日本で 150 万枚 [4]、『時の流れに身をまかせ』は 200 万枚 [5] を売る大ヒットとなる。

1984 年から 1986 年にかけて、『日本有線大賞』および『全日本有線放送大賞』の東西有線大賞で史上初の 3 年連続大賞・グランプリを受賞。1985 年 12 月には、彼女のソロコンサートとしては最後となるが、最大規模の演出をこらした NHK ホールコンサートが開催される。この時の歌唱は彼女のライブ公演の中でも最高の水準のものとして評価を得ている。

（中国民主化支援と挫折）

1986 年、改革開放路線を進める中華人民共和国においてテレサの歌が事実上解禁されたことで人気が再燃。コンサートのオファーも届くようになり [1]、同時期に米タイム誌によって世界 7 大女性歌手の 1 人に選ばれた。

1987 年、住居を香港に移すのと同時に、日本以外での歌手活動をほとんど休止するようになった。

1989 年 5 月 27 日には、かねてから中華人民共和国内で起きていた民主化要求デモを支援する目的で行われた、香港ハッピーヴァレー競馬場での中華人民共和国の民主化支援コンサートに参加。約 30 万人の前で、平和を願う「我的家在山的那一邊」（私の家は山の向こう）を歌い、亡命した民主化活動家とも交流を持った。しかし彼女の願いはかなわず、北京で天安門事件が起きてしまった。1990 年に予定されていた、彼女の夢であった両親の生まれた中国本土での初のコンサートも中止になった。当時、その心境を「夢は殺され 夢は見ることさえできなくなってしまった」と語っている。

（死去）

同 1989 年、失意の中アジアを離れて、フランスのパリに単身移り住む。中国への思いをさらに深めるようになり、1992 年に中国で広く愛されている「夜来香（イエライシャン）」を新たにレコーディングする [1]。この頃、喘息を悪化させ、次第に体調を崩していく [1]。1990 年以降は表舞台からも距離を置き、日本を訪れることも稀になった。日本での最後のテレビ出演は、1994 年 11 月に放送された NHK 『歌謡チャリティーコンサート』（仙台市にて公開録画）だった。

1995 年 5 月 8 日、静養のためたびたび訪れていたタイ・チェンマイのメイピンホテルで気管支喘息による発作のため死去した。42 歳の若さだった。テレサの遺体は、同月 12 日未明に同チェンマイ国際空港からタイ国際航空機（TG636 便）で台北の中正（現・桃園）

国際空港に搬送され、このとき、空港には 200 人を超える報道陣と、陸海空三軍の儀仗兵らが出迎えた。そしてこの日、テレサの葬儀を行うための台湾政府葬儀委員会が発足した。翌 13 日に中華テレビ局内に設置された霊堂に安置され、棺にはテレサの好んだ色である紫の布がかけられていた。そこにはテレサの肖像が掲げられ、堂内には彼女の歌声が途切れることなく流されていた。この礼拝所にはその日だけで 2000 人を超える人が足を運んだ。同月 28 日に台北で国葬が執り行われ、世界各国から 3 万人ものファンが詰め掛けた。遺体には実弟が持っていたチャイナドレスが着せられ、また、彼女の棺は中華民國の国旗と国民党党旗で覆われ、台湾での国民的英雄ぶりがうかがえた。

(死去後)

墓所は台北市の北東に位置する新北市金山区の金宝山にあり、小さな公園のように整備され、本名の一字を取って「筠園」と呼ばれている。



墓前には銅像があり、彼女の歌声が絶えず流されている。没後 10 年目に当たる 2005 年 5 月 8 日には、日本をはじめとするアジア各国からファン 300 人ほどが墓所に詰めかけ、追悼集会を開いて生前のテレサ・テンを偲んだ。台湾での彼女はあまりにも偉大なので、遺体は火葬されず、エンバーミングなどを施されて土葬された。没後 50 年は生前の姿であり続ける。なお、台湾でこのような形で眠っているのは、蔣介石、蔣経国、テレサ・テンの 3 人である。

1995 年の春にレコーディングする予定で作られた新曲「泣かないで」は、テレサが亡くなった翌年に新人歌手が歌い、彼女を追悼した。のちに「忘れないで- time to say good-bye -」として、彼女の七回忌に当たる 2001 年に、アグネス・チャンと北原ミレイ

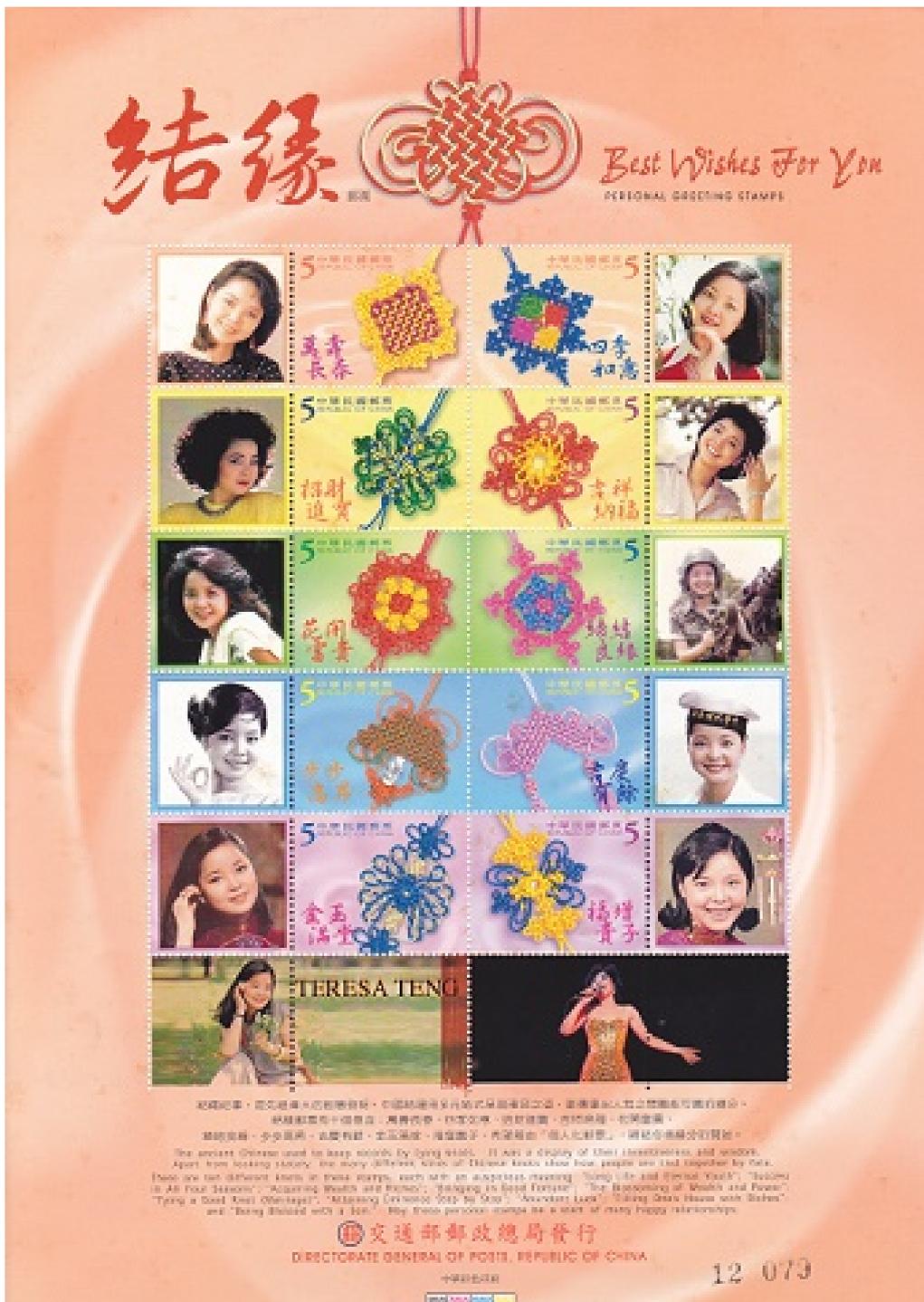
によって同時にレコーディングされ、追悼の意が表された。

日本における発売元であるユニバーサルミュージックは、テレサの死後も CD や DVD を発表し、2008 年 5 月時点で計 200 万枚を売り上げている。

2009 年 8 月、中華人民共和国政府系の総合インターネットサイト「中国網」が新中国建国 60 周年を前に行ったアンケート調査で、彼女は新中国で最も影響力のあった文化人に選出された。

2013 年 5 月、中国・北京でテレサ・テン生誕 60 周年記念コンサート「追夢」が行われ、中国や台湾から集まった人気歌手たちが彼女の歌を歌った。

2015 年 5 月 23 日「テレサ・テン（鄧麗君）メモリアルコンサート～没 20 年追悼チャリティ音楽会～」が渋谷公会堂で行われた。3D ホログラム映像でテレサ・テンの中国語版「時の流れに身をまかせ」「月はわが心」の 2 曲が再現された。同年 9 月 15 日に台湾の郵政当局が没 20 周年を記念とした切手冊子を発売。



teresa.jpg

(人物)

テレサ・テンは、台湾を代表する歌手の一人である。1970年代から1990年代にかけて、母国中華民国のみならず香港・マカオを含む中華文化圏全域ないし日本なども含めた東アジア文化圏ならびにその他の地域において広く人気を博したその業績から、生前から没後も「アジアの歌姫」と呼ばれている。

作品の累計売上は、控えめに見積もっても1億枚を超えるという [10]。

日本ではどちらかというと演歌歌手のイメージが強いが、実際はかなり幅広いジャンルの歌を歌っており、台湾や香港などで出されたアルバムには、演歌やムード歌謡に加えて台湾民謡や英語のポップス、日本語ポップスのカバー曲なども多数含まれている。1980年代後半以降のテレサは演歌・ムード歌謡というよりもJ-POP寄り、ASKAや桑田佳祐、ZARDの坂井泉水らの曲も歌っているため、必ずしも演歌歌手とはいえない部分が多い。

外国語にも堪能であり、北京語に加えて台湾語、広東語、日本語、英語に堪能で、山東語、マレー語、フランス語などの言葉も話せたと言われる。日本でリリースされた曲は約260曲ほどであるが、中国語でリリースした曲は1,000曲を越す。

英語名のテレサ (Teresa) は、彼女自身が尊敬するマザー・テレサに因んでつけたものと言われてきたが、実際はカトリック信徒だった彼女の洗礼名を転用したことが明らかにされている。テンは本名の姓『鄧』の中国語音をウェード式表記し、英語読みしたものである。

父親は中国河北省、母親は山東省出身の共に外省人で、両親が生まれた中国大陸で歌うことが夢だったという。また父親は元国民党軍（国府軍）の職業軍人であり、彼女自身、生前は軍隊への慰問活動を熱心に行っていたこともあり、台湾では「軍人の恋人」というニックネームでも有名。

（テレサ・テン死亡説）

1990年代にアジア各国で二回ほど彼女の死亡説が流布している。一度目は1990年5-6月に父親の葬儀への欠席をきっかけとした病死説、二度目は翌1991年4-5月に病死説・暗殺説が流れ、それを否定する本人のコメントが新聞記事などに取り上げられた。1995年5月の死亡時にも暗殺説が流れ、魅了した歌声を偲んだ特別番組の放映及び追悼公演等の催しが、台湾、中国、日本で行われている。

（テレサ・テンと有線放送）

日本において、テレサ・テンと有線放送は切っても切れない関係にある。1985年に大ヒットした『愛人』は、有線放送のリクエストチャートで14週連続1位を記録。なお、『日本有線大賞』では、1984年の『つぐない』・1985年の『愛人』・1986年の『時の流れに身をまかせ』で大賞3連覇を達成。また、『全日本有線放送大賞』でも、やはり1984年の『つぐない』・1985年の『愛人』・1986年の『時の流れに身をまかせ』でグランプリ3連覇を達成して、浜崎あゆみが2003年に4連覇を達成するまでは誰も破ることが出来なかった。そして東西有線大賞3年連続同時大賞・グランプリ達成という記録は、誰にも破られていない。

（テレサ・テンと中華人民共和国）

テレサ・テンの歌は、1974年頃から音楽テープによって、表現の自由だけでなく、諸外国の音楽の流入も制限されていた中華人民共和国に入り始めた。

彼女が歌う「何日君再来」は、1980年代初頭に日中戦争中の抗日歌として解釈され、中国大陆で爆発的にブームとなった。中華民国は、中国大陆に隣接する金門島から彼女の歌声を敵対関係にある中華人民共和国の統治区域に向けて大音量で大陸に向けて流したり、音楽テープを付けた風船を大陸に向けて飛ばしたりすることで、中華人民共和国における反中国共産党政府感情を駆り立てる宣伝の道具として彼女の歌を利用した。そのため中国共産党当局は、彼女の歌を不健全な「黄色歌曲」（ピンク歌曲）と位置づけて音楽テープの販売・所持等を禁止する措置を取り、これは1983年末まで続けられた。中華人民共和国で彼女の歌が禁止されていた時期でも実際には海賊版の音楽テープなどがかなり流布しており、それらを通して彼女の歌声を聞いていた人も多かった。1987年に両政府の関係改善がおこなわれ、台湾の商品を大陸で販売できるようになったことから、オリジナルの音楽テープが入るようになった。1989年6月4日に発生した中国共産党政権による反政府活動弾圧・虐殺事件である天安門事件の際には、香港で行われた民主化デモ弾圧に対する抗議集会に参加、民衆の前で歌を披露し、自ら中華人民共和国の民主化実現を訴えた。中国共産党政府による一党独裁を否定したテレサは、イギリスから中華人民共和国に返還・譲渡されることが決まっていた香港を発ち、フランスのパリへ移住した。生前、彼女は中華人民共和国でのコンサートを熱望していたものの、天安門事件で中国共産党政府に失望し、実際にそれが実現することはなかった。

以上の行動から、テレサ・テンを「中華民国（台湾）の広告塔」ととらえる見方もあったが、中華人民共和国での彼女の人気の高さを物語るエピソードとして、当時、中華人民共和国の国民の間で「昼は老鄧（鄧小平）のいうことを聞き、夜は小鄧（鄧麗君：テレサ・テン）を聴く」、「中華人民共和国は二人の鄧（鄧小平と鄧麗君）に支配されている」といったようなジョークが流行っていたことなどを挙げることができる。

2009年中華人民共和国建国60周年を迎えるにあたり、中共和国務院報道主催の「中国ネット」は7月24日から8月31日までの間、「新中国で最も影響力のある文化人物」のネット選出を行った。192人の候補者から、彼女が854万票の獲得で、第一位にランクインし、2400万人の投票者の35.7%を占めた。

（逸話・エピソード）

好きな食べ物の中でも、豚足を好んでいた。

小確幸 2

著 喜早天海

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
